

# TAKE ACTION

～機をとらえ、背中で語り、ミライへ紡げ～

# The Creed of Junior Chamber International

# JCI 綱領

We Believe :

That faith in God gives meaning  
and purpose to human life;  
That the brotherhood of man  
transcends the sovereignty of nations;  
That economic justice can best be won  
by free men through free enterprise;  
That government should be of laws  
rather than of men;  
That earth's great treasure lies in  
human personality; and  
That service to humanity is the best  
work of life.

我々はかく信じる：

真理は人生に意義と目的を与え  
人類の同胞愛は国家による統治を超越し  
公正な経済は我々の自由な経済活動に  
よってこそ果たされ  
政府には人治ではなく法治が必要であり  
人間の個性はこの世の至宝であり  
人類への奉仕が人生最大の使命である

<1947 年世界会議総会採択>

<1951 年一部追加>

---

## JCI Mission

To provide leadership development  
opportunities that empower young  
people to create positive change.

## JCI ミッション

青年会議所は、青年が社会により良い変化を  
もたらすためにリーダーシップの  
開発と成長の機会を提供する。

<2008 年世界会議総会採択>

---

## JCI Vision

To be the foremost global network  
of young leaders.

## JCI ビジョン

青年会議所が、若きリーダーの  
国際的ネットワークを先導する組織となる。

<2008 年世界会議総会採択>

---

## JC 宣言

日本の青年会議所は  
希望をもたらす変革の起点として  
輝く個性が調和する未来を描き  
社会の課題を解決することで  
持続可能な地域を創ることを誓う

---

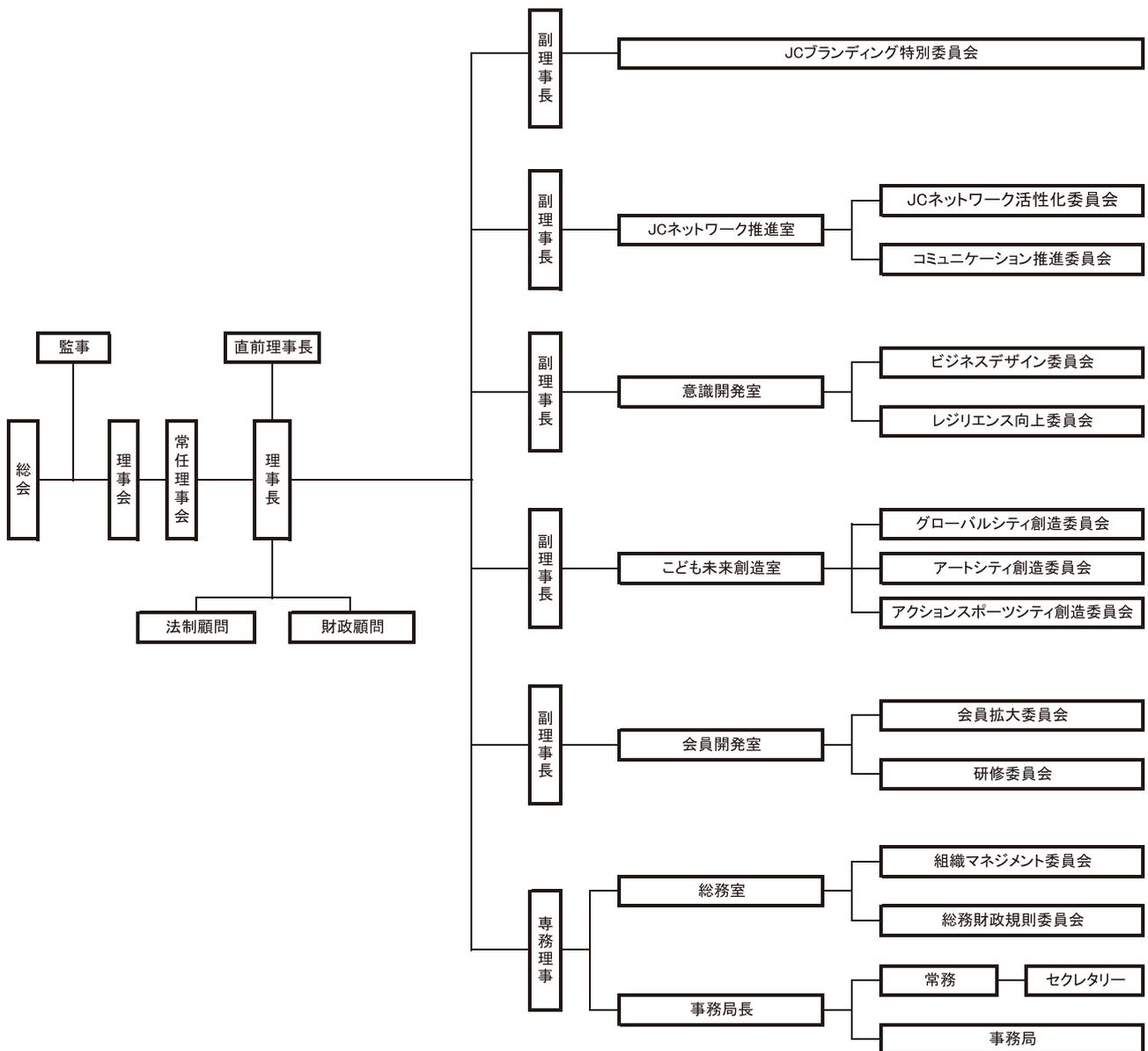
## 綱領

われわれ JAYCEE は  
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し  
志を同じうする者 相集い 力を合わせ  
青年としての  
英知と勇気と情熱をもって  
明るい豊かな社会を築き上げよう

# 目次

2025年度	組織図	2
2025年度	役員	3
2025年度	理事長所信	4
2025年度	理事長、直前理事長、副理事長、専務理事、 監事、法制顧問、財政顧問、事務局長、 常務、セクレタリー	12
2025年度	室・委員会 基本方針・事業計画	14
2025年度	室・委員会 所務分掌規程	33
2025年度	委員会編成表	35
	青年会議所の概況	36
2025年度	日本JC、九州地区協議会、福岡ブロック協議会 組織図	37
	福岡青年会議所 歴代理事長	40
	出向外部団体一覧	41

一般社団法人 福岡青年会議所  
2025年度 組織図



## 一般社団法人 福岡青年会議所 2025年度 役員

理 事 長	尾 本 勝 征	直前理事長	石 坂 泰 三
副 理 事 長	堤 祐 一 郎 田 雑 嘉 貢 大 幡 則 文 甲 木 正 孝 伊 東 健 太 郎	監 事	原 翼
専 務 理 事	田 原 義 也	法 制 顧 問	榑 洋 章
		財 政 顧 問	中 之 蘭 匡 伸

常 任 理 事	森 重 樹 馬 場 秀 一 寺 田 光 児 小 柳 佑 貴 鶴 和 晃 立 部 真 康 後 藤 雄 治	事務局長 JCネットワーク推進室長 意識開発室長 こども未来創造室長 会員開発室長 総務室長 JCブランディング特別委員長
理 事	高 山 伸 太 郎 岩 切 拓 也 中 井 新 一 西 方 亮 祐 濱 田 正 輝 小 菅 良 助 浦 田 慎 也 千 代 田 明 久 國 松 祥 治 坪 井 智 之 近 藤 圭  宮 崎 祥 平	JCネットワーク活性化委員長 コミュニケーション推進委員長 ビジネスデザイン委員長 レジリエンス向上委員長 グローバルシティ創造委員長 アートシティ創造委員長 アクションスポーツシティ創造委員長 会員拡大委員長 研修委員長 組織マネジメント委員長 総務財政規則委員長  (日本青年会議所 副委員長)

一般社団法人福岡青年会議所  
2025年度理事長所信



第73代理事長  
尾本 勝征

## Take Action

～機をとらえ、背中で語り、ミライへ紡げ～

### 「基本理念」

私たちは、青年らしい挑戦、ワクワクする本気の遊び心を追求する事で、  
明るい豊かな“FUKUOKA”を実現する。

あなたは今、何のためにJC活動をしていますか？

あなたは今、人生を有意義に生きていますか？

あなたは今、未知なる可能性にワクワクしていますか？

誰もが何かを求め、何かに希望を抱き、無限の可能性を感じて、青年会議所に入会したのではないのでしょうか。きっかけは小さなものだったかもしれませんが、入会を決意した時、胸に何かしらの想いがあったはずです。私も、その一人です。

入会した当初、私は会社を設立したばかりで、業績や目先の利益を上げることに必死でした。「自分の会社さえ良ければそれでいい」という損得勘定で行動していたのです。振り返ると、無我夢中で周りが見えず、後先を考える余裕もなく、先輩方や仲間たちに迷惑をかけることもあったと思います。しかし、この青年会議所には、どんな状況でも親身に向き合ってくれる先輩がいて、また、真剣に向き合えばそれに応えてくれる仲間たちがいました。彼らに支えられたことで、私はより高みへと導かれ、人に目を配り、気を配り、そして思いや

ることの大切さを改めて実感しました。

この福岡青年会議所という場所で12年という月日を経て、幾つもの出逢いと多くの経験を  
得た私は、気づけば今、この場所に立てる人間へと成長することができました。  
振り返ればそこには多くの偉大な先輩方、信頼し合える仲間が存在し、今では何事にも変え  
がたい私の人生の財産となっています。

打算的な行動では、今の自分の枠を超えることはできません。自分が生み出す以上のものを  
成し遂げることは難しく、どれだけ時間が経っても次のステージに進むことはできないと  
私は思います。強い絆で結ばれた仲間たちと、本音で語り合い、本気で向き合い、力強く物  
事を推し進めていくことこそ、青年会議所の最大の魅力であり、誇りであると私は確信して  
います。

まちのため、ひとのため、未来の可能性のために“今”信頼という種をまく。

それには私一人の力ではなく、福岡青年会議所の全員が一丸となり、責任を背負う覚悟、や  
り遂げる行動力、そして揺るぎない信念が必要です。

幾つもの決断を重ね、幾つもの責任を果たすことで、互いの信頼が培われ、慕われ、それが  
尊敬へとつながり、一人ひとりが魅力溢れる人へと成長して行くのだと考えます。

どんな状況であれ、全ては自分次第です。

今、あなたは自分の道をどう歩んでいますか？

どのように自分の未来を切り拓きたいですか？

あなたの人生は、あなただけが描くことができます。

全てはあなたの手の中にあります。

あなたが多くの決断と行動を重ねながら、困難を乗り越え歩む道は、後輩たちの道標とな  
り、希望に満ち溢れる“ミライ”へ想いを紡ぐと信じています。

## ～地域や企業の人財が自然に集う組織への改革～

近年、IT やビジネスの著しい発展によって人々の社会的価値観は大きく変化しました。一方で福岡青年会議所は 70 年を超える歴史の中で時代に合わせた変化・進化をしてきたでしょうか。

偉大な先輩方がこれまで作ってこられてきた信頼・実績の歴史に裏付けされた団体の強さは第 73 回全国大会福岡大会へと繋がり私たちの代まで受け継がれてきました。

しかしながら、時代に沿って生まれ変わらなければならないことを置き去りにしてしまった反面があると思います。

それは会員数の減少、女性会員比率の低さなど、様々な数字に表れているように思えます。限られた多くの時間を注ぎ、何のために、なぜ J C をやるのか。

今一度その意味を一人ひとりが考え、団体を変化・進化させることが重要だと私は感じています。

ホークス誘致、アジア太平洋こども会議、中洲 JAZZ…

私たち現役も知る歴史の中で生まれた様々な事業。

そんな J C を知るひとは“今”まちにどれだけいるのでしょうか。

私は 12 年の歴の中で、J C が毎年運動を展開し、その運動を支援・応援をしてくれるたくさんの方々の姿や笑顔を見てきました。しかしながら、J C の運動の素晴らしさはその認知度と比例しているように見えない側面も見てきました。

実績や運動の“発信”によって J C をまずは知ってもらうこと。

そして組織の“ブランディング”を行うこと。

この“ブランディング”こそが福岡青年会議所のファンを内外に作り、10 年後、20 年後へと続く持続可能な団体へと成長させることへの最重要テーマであると考えます。

また、2024 年度は第 73 回全国大会福岡大会という機会を得て、我々は大きく成長することができたのではないのでしょうか。

この成長の機会の陰にある、シニアメンバーの先輩方、行政や関係各所の方々の支えを忘れてはなりません。この築いてきた関係性の強みを活かし、私たちはまさに本当に必要とされる団体へと進化していかなくてはなりません。

その為にも FUKUOKA のひとづくり、まちづくりを行っていくために目の前のまちの課題を捉え、市民の意識醸成を行っていく事業展開が私たちには必要です。

そして 2022 年に提言した「子ども未来都市宣言」を軸にした事業展開を 3 年目の今年をひ

とつの節目と捉え、行政や市民がイメージすることができる一大事業を実施します。  
本年もまちの課題に寄り添い、ミライのFUKUOKAへと繋げていく。そんな事業を展開していきます。

私たちの所属する青年会議所は多くの機会を得ることができる組織です。  
その機会を正会員だけではなく、より若い層へと提供することができる仕組みを設け、時代に合わせた組織改革、人材育成を行い、内外のファンを作ることで自然に人財が集う組織への改革を目指します。

ひと・団体・組織、そしてまちまでも巻き込み、共感を生み出していくために、  
“本気の遊び心が生み出す、型にハマらない発想で”  
まずは私たち自身がワクワクしていきましょう！

#### 【戦略的にムーブメントを創り出し、共感を生む】

私たちの行う運動や活動は多くの人々に共感を生むことが前提です。  
あらゆる情報が溢れる時代に、いくら断続的に情報を発信したとしても、伝わらない言葉や文章はただの文字列にすぎません。  
時代の移り変わりが早い中、我々の存在意義やファンを確立していくためには、受け手の立場を考え、心に刺さるメッセージで伝わる発信を行う必要があります。  
また、我々が取り組む事業は多岐にわたるが故に、一人ひとりのメンバーが日々どんな活動をしているのかが見えづらくなっている現状があります。対内への情報発信もこれまで以上に充実させ、一つ一つの事業や活動にスポットライトを当て、組織全体のモチベーションと価値を向上させることで運動の質を高める必要があります。  
「共感がファンを生み、ファンが組織を活気付ける」持続可能な組織運営のために、マーケティングの理論を用いてしっかりと戦略を立てることで成果を最大限に発揮し、より多くのひとにJCの魅力の発信と共感を生み出しましょう。

#### 【エンゲージメントを向上させ、より強固なJCへ】

35年ぶりに開催された全国大会を契機に、私たちは多くの仲間やパートナーとつながりを持つことができ、主管する私たち一人ひとりが貴重な経験で成長と発展の機会を得ることができました。このつながりと経験こそが何事にも変えられない財産になったと考えます。幾つものチャレンジをやり遂げてきた私たちは今、新たなステージに立っています。  
今に至るまで培われた人財を来年、再来年とさらに飛躍させ、より強い福岡青年会議所とす

るためにも、これまで築き上げた関係性をさらに強固なものとし、福岡ブロック協議会内の22の青年会議所や姉妹JCのみならず全国の各地青年会議所を巻き込み、運動面や人材育成面で協力し、共創することでこれからの担う人財にJCの機会と魅力を伝えていきたいと思います。

#### 【地域の未来を切り開くために】

ここ数年、ITやビジネスの急速な進展により、人々の社会的価値観や経済のあり方が大きく変わってきました。また、ChatGPTなどのAIやIoTの台頭により、さらなる時代の変化が避けられず、近い将来、私たちの身近な仕事のあり方も大きく変わることでしょう。かつて、米誌のランキングに多くノミネートされていた日本企業も、1989年には111社が名前を連ねていましたが、2019年には52社、2023年には41社に減少しました。このように、多くの分野で日本企業の存在感は薄れ、「失われた30年」とも称されるほど、日本の経済はグローバルな視点から見ると衰退しています。また、私たち国民も増加し続ける税金や社会保険料、物価上昇による経済的負担が増す一方です。しかし、その一方で、AIなどの技術を活用することで、一人あたりの労働生産性が向上している側面もあります。これにより、日々の時間が単なるタスクの処理に終わることなく、より多くのアイデアを生み出す時間やスキルアップのための学ぶ時間が生まれ、人生を豊かにするための新たな可能性が開けると考えます。

住み暮らす一人ひとりの幸福度を向上し、豊かなFUKUOKAにしていくためにも、私たちは誰もがグローバルに成長し、世界経済と対等に渡り合うための知識、スキル、行動力を身につけ、それをまちへ還元できる人財となる必要があります。

#### 【来たるべき時に備えて】

福岡県西方沖地震の発災から20年、熊本地震からは5年、能登半島地震からはまだ僅かな月日しか流れていない中、我々は何を学び、何を教訓として取り組むことができているでしょうか。近い将来発生すると示唆される南海トラフ大地震や警固断層に関連する地震発生確率が“Sランク”という危機が差し迫る中で、機動性に富んだ進化はおろか、防災意識が風化してはいないかと懸念を抱いています。

また、近年の世界情勢はより複雑化し、近隣諸国間における政治同士の外交だけでは解決することが難しい様々な問題を内包しています。

我々福岡青年会議所もいつ起こるか分からない有事にどのように備えていくか常日頃から一人ひとりが考え、他団体と密に連絡を取り合い、より効果的な災害支援に備える準備が必要であると考えます。いざ有事に直面した際、想像を超える混乱の中で率先して行動を起こす

者こそ、広大なネットワークを有した我々に他ならないと考えます。人との繋がりを活かし、被災経験者や被災地の同志の実体験に基づく教訓から、防災減災体制の在り方を考察すると共にどう行動すべきかを研鑽し、実働可能な体制の一層の強化に努めていく必要があります。

また、市民の自助意識の啓発を図り、「有事」へ取り組む機会を創出すると共に、我々は企業人としても、BCP(事業継続計画)対策に取り組む必要性も忘れてはなりません。家族を守り、社員を守り、住み暮らす地域を守る行動をすることで尊い「命」を守りましょう。

### 【ワクワクする夢を描く】

福岡の輝かしい未来を担うのはまちに住み暮らす子どもたちです。この子どもたち一人ひとりが福岡を心から愛し、その魅力を伝える存在へと成長してもらわなければなりません。コロナの脅威が過ぎた今、こども未来都市宣言で掲げるリアルな国際交流の機会を提供し、スポーツや文化の交流を通して人財の育成を図ることで、「アジア No1 都市」へと押し進めていく必要があります。

心豊かな時間でライフスタイルを楽しめる魅力的な FUKUOKA のまちへと発展させるために、まずは、福岡に住み暮らす子どもたちが、地域に潜在する魅力や価値を改めて認識し、未来の魅力を伝える人財とするために今まで以上に市民の意識を変革し、私たち自身が福岡の誇れる資源となりましょう。

そして、すべての住まう人々がワクワクする事業を創出し、経験や体験を通して、インパクトと共に子どもたちに提供することで未来のまちへの基盤となり、それが子どもたちの「夢」となって住み暮らす人の幸福度向上へとつながります。多くのネットワークを活かして地域に求められている新たな事業に挑戦していきましょう。

### 【経済人として個の成長と組織の進化を】

「新日本の再建は我々青年の仕事である」。

この文章は 1949 年に日本で最初に設立された東京青年会議所の設立趣意書に書かれた一文です。そして「あらためて述べる迄もなく今日の日本の実情は極めて苦難に満ちている。この苦難を打開していくため採るべき途は国内経済の充実であり、国際経済との密接なる提携である」と続きます。設立趣意書にある通り、国内経済の充実と国際経済の提携の観点でも、まず自分自身の社業を守り、成長させていくことが大前提となると考えます。

私たちは、地域のニーズや市民の期待に応えるために、適切なビジョン設計と持続可能な事業活動を行う必要があります。自分自身の成長が社業に活き、それが福岡のまちに良い影響を及ぼし、さらには全国へと伝播することで日本経済を良くしていくことができるはずで

す。まずはその原動力たる個々の成長のために、金融リテラシーや経営スキルなどのノウハウを持ち合わせて共有することで、個々の成長と組織の進化につなげる学びとし、メンバー同士のコミュニケーションを活性化させることで組織全体の地盤を強化させていきましょう。

#### 【変革をもたらす原石の発掘】

青年会議所は地域のリーダーを育成する最も効果的な組織です。会員の拡大は「戦略」を立て「行動」する必要があるとあり、多くの候補者に青年会議所の運動を発信し、青年経済人として成長する機会、地域の総合的な発展に寄与する機会を伝えることで、運動の理解と協力をより強固なものとし、共に運動する人財を増やしていく必要があります。

現在の会員の入会率は10年前では平均70%だったのが近年は60%へと低下傾向にあります。この現状を打開するためにもこれまで培った繋がりを活かし、対内の連携をより活用することが必要です。

青年会議所は多くの機会を得ることができる組織です。正会員だけでなくより若い層に機会を提供することができる仕組みを設け、会員の在り方を見直し、多くの共感を得て、共に学び合い、「人のため、地域のため」利他の精神で「行動」することのできる人財を増やすことが福岡JCの持続可能な組織となるために必要不可欠です。

#### 【変革を起こす志ある人財の育成】

綱領の一文に「志を同じうする者相集い力を合わせ」とあるように、組織づくりにおいて最も重要なことは志の共有であると考えます。これは青年会議所に限らず会社や家庭においても同じです。

まずは我々自身が、これからの時代に必要とされる知見を習得し、今一度JCプロトコルや三信条、リーダーシップについて考え、地域における課題解決を実践できる強い実行力と行動力を兼ね備えて、周りにいる人たちを巻き込んでいける魅力ある人財に成長しなければいけません。世界経済をも変えた先輩、国のトップを勤めた先輩、地域に変化をもたらした先輩、多くの先輩方の実績があるように、多種多様な機会を提供するJCだからこそ、その学びの機会を積極的に活用し、個人の成長、その先の所属する組織の成長につなげ、我々の運動にさらなる共感を生むことができる人財を育成しましょう。

#### 【強いパートナーシップが生む効果の最大化】

無から壺を創るのではなく、「行政、企業、団体、資源 × JC」でイノベーションを起こすことが時代の波を捉え、変化を追い風とし、明るい豊かな社会の実現に向けた未来へと加速

させることができると考えます。

我々は、青年経済人の集う組織であり、そこに所属する誰もがみな何かしらのビジネスを通して地域経済に貢献しています。

地域においてその効果を最大限に発揮させ、自らの成長だけでなく、企業や地域の発展に寄与するには、行政・企業・団体と積極的なパートナーシップを構築することが必要です。より多くの地域市民を巻き込み、我々の運動に共感を促すことで、組織のカウンターパートとして協力し合い、効果を最大限に高めましょう。

青年会議所では、「ビジネスの機会」が公益社団法人日本青年会議所の定款に明記されて以来、これまでより多くの場面で関連する事業や成果を生み出してきました。福岡青年会議所においても、ビジネスの視点での連携をアップデートし、組織や地域の関係性を次のステップに進めるためには、より一步踏み込んだ関係を構築するとともに、より実践的な取り組みに昇華する必要があります。団体や組織の枠を超えて持続可能な連携関係を創り、地域や市民に愛される好例を生み出していきます。

#### 【時代の波に乗る機動的かつニューノーマルな組織】

青年会議所は組織の根幹を担う運営が重要であり、長きにわたり守り抜かれてきたルールや慣習と、受け継がれてきたプロトコルのもと運営されてきました。また、様々な状況下でどんな時代においても機動的に率先して行動することで、組織のレジリエンスを高めた各種会議、総会運営を可能とすることができます。

これからの時代、戦略的に運動を起こしていくためには固定観念を捨て、発想の転換を柔軟に行い、運営において取捨選択をする中で時には諸規則を変更することも視野に入れ、時代に即した組織の基盤を創っていきましょう。



型にハマることのない本気の遊び心はひとをワクワクさせ、多くの心を虜にします。

新たな時代の幕開けに馬鹿げた夢物語を壮大に描き、歴史に刻みましょう。

福岡から日本へ、そして日本から世界へと革新する中心地が、  
この FUKUOKA でありたい。

**Take Action !!**



理事長  
尾本 勝 征  
President  
Katsumasa Omoto



直前理事長  
石坂 泰 三  
Immediate Past President  
Taizo Ishizaka



副理事長  
堤 祐 一 郎  
Executive Vice President  
Yuichiro Tsutsumi



副理事長  
田 雑 嘉 貢  
Executive Vice President  
Yoshitsugu Tazo



副理事長  
大 幡 則 文  
Executive Vice President  
Norifumi Ohata



副理事長  
甲 木 正 孝  
Executive Vice President  
Masataka Katsuki



副理事長  
伊 東 健 太 郎  
Executive Vice President  
Kentaro Ito



専務理事  
田 原 義 也  
Senior Executive Director  
Yoshiya Tahara



監 事  
原 翼  
Auditor  
Tsubasa Hara



法制顧問  
榊 洋 章  
General Legal Counsel  
Hiroaki Sakaki



財政顧問  
中 之 蘭 匡 伸  
Treasurer  
Masanobu Nakanosono



事務局長  
森 重 樹  
Secretary-General  
Shigeki Mori



常務  
友田 圭祐  
Managing Director  
Keisuke Tomoda



常務  
三 苫 弘 典  
Managing Director  
Hironori Mitoma



セクレタリー  
大 城 大  
Secretary  
Dai Oshiro



セクレタリー  
小 池 直 人  
Secretary  
Naoto Koike



セクレタリー  
山 下 一 喜  
Secretary  
Ikki Yamashita

# JCブランディング特別委員会

## 委員会スローガン【奮励努力】



委員長 後藤 雄 治  
副委員長 牛島 淳 嗣  
総括幹事 入江 賢  
運営幹事 氣賀澤 暢 真  
運営幹事 山口 武 蔵  
会計幹事 長澤 一 輝  
広報幹事 徳田 成 寿  
宮崎 祥 平  
秋吉 光太郎  
小野瀬 泰 星  
坂田 裕 之  
平井 裕 登  
保利 一 晶  
三上 滉 貴  
吉村 稔

### ●基本方針

これまで福岡JCは、地元の福岡市やその周辺地域の発展を目指し、地域活性化やまちづくりに関わる事業を展開し、偉大な先輩方がこれまで作ってこられてきた信頼・実績の歴史に裏付けされた団体の強さは第73回全国大会福岡大会へと繋がり私たちの代まで受け継がれてきました。

しかし、近年少子高齢化や地域コミュニティの変化に伴い、会員数の減少や女性会員比率の低さ、若い世代の地域社会への関心や参加意欲が薄れていることが背景にあります。そして、現代の社会ではデジタル技術の活用やSNSを通じた広報活動が重要です。しかし現代に合った広報活動が出来ていない事も現状の課題です。広報活動だけでなく会員拡大に繋げるためにはそれらの課題を解決しなければ、これからの福岡JCの存続や発展の危機だと感じます。

そこで当委員会では、地域社会の情報化が進む中で、積極的にデジタルツールやSNSを活用し、幅広い世代に向けた情報発信を強化します。デジタル化により活動の効率化も進め、SNSやWebコンテンツを通じて広報活動や新規会員の獲得、若者へのアプローチを効果的に展開します。この時代に合わせ福岡JCのブランディングをすることで地域住民へのアピールや会員拡大へと繋がると考えます。Instagram、そしてTikTokのフォロワーを増やし、ホームページを連携させ、対外用LINE@の友達を増やすために、各種行事・事業において事前・事後アンケートを取り、まちのひとに共感を生み、持続的にファンを作っていき事後次世代に残していける財産になると考えます。

この1年間を通して委員会メンバー全員が次世代にとって大切な事を考え、何事にもチャレンジし、事業を通して意識を高め一人ひとりが輝き、魅力を発揮するだけでなく、メンバー同士が切磋琢磨できる委員会運営を行います。

### ●事業計画

□LOMの運動、活動が多くの人目に触れるような情報発信の仕組みづくり

〈目的〉有識者とカウンターパートとして迎えることで効果的に情報を発信することで多くの人に福岡JCの運動、活動を知ってもらうこと。

〈方法〉LINE@やホームページ、SNSを使い、随時対内対外に情報発信を行う。

□LOM運動の広報手法を調査・研究し、効果的な情報発信の実施

◇LOMホームページの管理・運営に関する事項

〈目的〉福岡JCの取り組みや事業を、対内・対外ともに広く情報発信すること。

〈方法〉ホームページのリニューアルを行い、随時更新し、対内・対外に情報発信を行う。

◇LOM紹介映像の制作

〈目的〉対外：福岡JCのことを外部に発信し、知って頂き、共感して頂くこと。

対内：福岡JCでの活動のモチベーションにつながる情報を動画で伝えること。

〈方法〉2025年度版のLOM紹介映像を作り、ホームページやSNSでの発信で人々が目にする機会を増やす。また、新春例会をはじめ各種事業でも放映し、メンバーをはじめ福岡青年会議所に関わった人々の目に触れる機会を増やす。

◇各種行事・事業の対外・対内への事前・事後情報発信

〈目的〉対外：福岡JCの各種行事・事業を知って頂き、共感していただくこと。

対内：福岡JCメンバーに発信することでメンバーの機運を高めること。

〈方法〉LINE@やホームページ、SNSを使い、随時対内対外に情報発信を行う。

◇SNSなどを利用した情報発信の企画・管理・運営

〈目的〉効果的で正確な情報を迅速に届けることで、メンバーの活動をより活発化させる。

〈方法〉Googleカレンダーでスケジュールを管理し、リマインドを含めLINE@でスケジュールを発信する。また、SNS情報も発信し、オンライン上の円滑な管理・運営を行う。

◇プレスリリースに関する事項

〈目的〉対外・対内へ最新の情報を発信することで事業への参加促進や拡大、そして福岡JCのブランディング向上へとつなげる。

〈方法〉FacebookとInstagram、そしてTikTokを活用し事業関連の発信を実施。基本的な発信フォーマットに則り、各委員会からのリクエストに応じて対応する。そして福岡青年会議所に所属するマスメディア企業のメンバーと定期的に交流を図り、情報を交換する。

◇持続可能な組織づくりのための継続的なファンづくり

〈目的〉共感を生むことでファンを作ることで、各種行事・事業の集客や、福岡JCの拡大につなげること。

〈方法〉事業参加者から対外用事前・事後アンケートをいただき感度の高い地域住民に対外用LINE@に登録をしていただき最新の情報を発信する。

# JCブランディング特別委員会

- LOM活動の効果的な対外情報発信に関する企画・管理・運営
  - ◇外部団体からの取材などに関する対応
    - 〈目的〉外部団体と友好的な関係を築き、有意義な情報交換を図れる体制を整備し、外部からの取材依頼などにも迅速に対応できる体制を構築すること。
    - 〈方法〉他団体の集会にも積極的に参加する。また能動的に取材が入るよう情報交換を行う。
  - ◇LOM活動における写真・動画などの記録・管理
    - 〈目的〉様々な取り組みを未来のLOMの財産として残し、今後の発展に寄与すること。
    - 〈方法〉各事業や集会に参加し、写真や動画を撮影する。万が一、委員会メンバーが参加できない場合は、現地にいるメンバーに撮影を依頼する等の対応で記録を残す。
- 対外アンケートに関する事項
  - 〈目的〉各種行事・事業の参加者からアンケートをいただくことで、参加者から見る福岡JCへの情報を知ること。
  - 〈方法〉各種行事・事業の参加者へQRコードでの配布や対外用LINE@にてアンケートを回収し情報収集を行う。
- 会員拡大に関する事項
  - ◇会員拡大・研修に関する事項
    - 〈目的〉LOMの成長とまちへの貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。
    - 〈方法〉メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また、委員長のリーダーシップのもと、総括幹事が推進役を担う。
- 非会員の個人情報の管理に関する事項
  - 〈目的〉非会員の個人情報を集めることで、拡大につなげること。
  - 〈方法〉福岡JCに対する好感度が高い地域住民を、SNSやホームページを使いLINE@で管理していく。事前、事後アンケートをまとめた個人情報を情報漏洩しないようにまとめ次年度以降に引継ぐ。
- 非常災害時における支援に関する事項
  - 〈目的〉非常災害が発生したときに、機動的に災害支援を行い、被災地や被災された市民に貢献すること。
  - 〈方法〉LOM内で策定された行動計画・行動マニュアルを理解し、日常的に防災意識を持つことで、非常時に機動的にかつ組織的に行動できるように努める。

## 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2024年 11月	□討議□協議□協議□協議(ホームページ作成議案) □討議□協議□協議□協議(推進議案)		6月	□討議□協議□協議□協議(推進議案)	ASPAC(ウランバトル)オールメンバーの集い
12月	□討議□協議□協議□協議(ホームページ作成議案) □討議□審議□協議□審議(推進議案)		7月	□討議□協議□協議□協議(推進議案)	サマーコンファレンス(横浜)国際アカデミー
2025年 1月		京都会議 HP更新 紹介動画	8月	□討議□協議□協議□協議(推進議案)	九州地区大会(延岡)
2月	□討議□協議□協議□協議(推進議案)	第3エリア合同例会	9月	□討議□協議□協議□協議(推進議案)	
3月	□討議□協議□協議□協議(推進議案)		10月	□討議□協議□協議□協議(推進議案)	全国大会(佐賀)
4月	□討議□協議□協議□協議(推進議案)		11月	□討議□協議□協議□協議(推進議案)	世界会議(チュニス)
5月	□討議□協議□協議□協議(推進議案)	福岡ブロック大会(山門)	12月	□討議□協議□協議□協議(推進議案)	送る夕べ 総会



室 長 馬 場 秀 一

## ●基本方針

福岡青年会議所は昨年度の35年ぶりの全国大会福岡大会を経験していく中で、偉大な先輩方がこれまで作ってこられてきた信頼・実績の歴史に裏付けされた団体の強さを強く感じながら成功裏に終わることができました。しかし全国大会を契機に、私たちは多くの仲間やパートナーとつながりを持つことはできましたが、まちから本当に必要とされる団体に進化していくには、さらに強固な関係を築く必要があります。

そのためにも、福岡ブロック協議会内の22の青年会議所や姉妹JCのみならず全国の各地青年会議所を巻き込み、運動面や人財育成面で協力し、共創することや他LOMの参考となる取り組みを、LOM内に発信する事で青年会議所の魅力をよりメンバーに知っていただきます。それが我々の存在意義やファンを確立することに繋がり、さらに魅力的なFUKUOKAのまちへと発展していけるはずで。そしてこれまで地域に変化をもたらせた多くの先輩方との交流の場として趣味の会などの機会を活用し、さらに結束を深めJCネットワーク推進室として対内へ伝播させていきます。

最後にJCネットワーク室として組織のブランディングを行い、福岡青年会議所のファンを多く作り出すことで、10年後、20年後続く持続可能な強固な団体へと成長させていきます。ワクワクするまちづくりへ、まずは我々がワクワクする組織へと。

# JCネットワーク活性化委員会

## 委員会スローガン【-Everyday Entertainment-】



委員長 高山 伸太郎  
副委員長 進藤 貴聡  
総括幹事 岡崎 竜也  
運営幹事 野田 真禎  
会計幹事 熊本 大治  
広報幹事 山下 卓也  
工藤 大明  
左近 春香  
末永 純也  
竹野 恵介  
永松 賢二  
間嶋 弘幸  
山下 正太

### ●基本方針

35年ぶりに開催された全国大会福岡大会。街を超え、地域を超え、様々なLOMと関わりを持つことができました。何よりも、いくつものチャレンジをしてきた私たち一人ひとりが得た貴重な経験は、何事にも変えがたい財産になったと考えています。しかし、その機会を次に生かすことができなければ、せっかく得た経験が無駄になってしまうかもしれません。福岡JCは、キャピタルLOMと呼ばれ、研修委員会などの人材を育成するための委員会もあり、やりたいことがほとんど完結できるような組織になっていますが、その反面、他LOMと交流を図り、学びを得る姿勢や行動が少なくなっているのではと考えています。今、福岡JCに必要なのは、これまで築き上げた関係性を強化し、更に、新たな出会いの機会を創り、福岡JCの魅力伝えて行くことが必要だと考えています。

そこで、当委員会は福岡ブロック協議会内の22の青年会議所や姉妹JCや友好JCをはじめ、福岡JCだけでなく周囲のLOMを巻き込んだ共同事業を構築することを考えています。これまでにない人との出会いは、新たな価値観や気付きが創出され、誰も想像していないような化学反応が起こし、メンバーの大きな成長に繋がると考えています。また、他LOMの取り組みを持ち帰り紹介することで、福岡JCの成長のきっかけに繋げることができると考えています。それが、一人ひとりの共感を生み、対内から対外へ波及しファンを作ることができると考えています。

メンバーにスポットライトを当て、毎日がエンターテイメントになる仕掛けをし、誰もが挑戦できる環境を作り、楽しく仕方がなく、全員が輝きを放ち、ポジティブチェンジが止まらない委員会運営をしていきます。

### ●事業計画

- ◇姉妹JCや友好JCなどブロックや他LOMと共同で行う事業の実施
  - 〈目的〉他LOMとの関係性を強化し、より強い福岡青年会議所にするきっかけを作ること。
  - 〈方法〉国内外のLOMを巻き込み、共感やファンを生み出す事業の企画・設営を行う。
- ◇福岡ブロック第3エリア合同例会の実施(2月)
  - 〈目的〉福岡ブロック協議会の方針を理解し活動意欲を高めること。第3エリア内のメンバーと交流を図り結束を強めること。
  - 〈方法〉主幹LOMである糟屋JCの補助をし、糸島JC、朝倉JC、つくしJCとの連携を図り、福岡ブロックの方針が全メンバーに行き渡るような企画・設営をする。また5LOMの交流が図れる設営・運営を行う。
- ◇他LOMの参考になる取り組みをLOM内に発信に関する通常例会の実施(11月)
  - 〈目的〉他LOMの様々な取り組みを知り、福岡JCの今後の活動・運動に活かすこと。
  - 〈方法〉地域問わず様々なLOMにヒアリングを行い、様々な取り組みを発信する企画・設営を行う。
- ◇出向者の支援、ならびに対内への情報発信に関する事項
  - 〈目的〉日本JC、九州地区協議会、福岡ブロック協議会に出向するメンバーの支援をすること。
  - 〈方法〉出向者とコミュニケーションを図り、福岡市開催の集会や事業のサポートを行う。また、各種事業に関しても情報を発信し参加促進の一助を担う。
- ◇出向促進セミナーの実施(10月)
  - 〈目的〉日本JC、九州地区協議会、福岡ブロック協議会など出向への理解と参加促進を行うこと。
  - 〈方法〉2025年10月にセミナーの企画実施を行う。
- ◇ASPAC(ウランバートル)への参加促進(6月)
  - 〈目的〉ASPACに参加し、よりグローバルな視点を身につけること。海外LOMとの連携を強化すること。
  - 〈方法〉ASPACの内容を発信し、参加することの意義やメリットを伝え、参加促進を行う。
- ◇世界会議(チュニス)への参加促進(11月)
  - 〈目的〉世界会議に参加し、よりグローバルな視点を身につけること。海外LOMとの連携を強化すること。
  - 〈方法〉世界会議の内容を発信し、参加することの意義やメリットを伝え、参加促進を行う。
- ◇福岡ブロック大会への参加促進(5月)
  - 〈目的〉福岡ブロック大会の意義を理解して頂き、多くのメンバーに参加して頂く。
  - 〈方法〉多くのメンバーにファンクションに参加してもらい、大会の意義であるJC運動を共有する事。
- ◇九州地区大会への参加促進(8月)
  - 〈目的〉九州地区大会の意義を理解して頂き、多くのメンバーに参加して頂く。
  - 〈方法〉多くのメンバーにファンクションに参加してもらい、大会の意義であるJC運動を共有する事。
- ◇会員拡大・研修に関する事項
  - 〈目的〉LOMの成長とまちへの貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。
  - 〈方法〉メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また、委員長のリーダーシップのもと、総括幹事が推進役を担う。
- ◇非常災害時における支援に関する事項
  - 〈目的〉非常災害が発生したときに、機動的に災害支援を行い、被災地や被災された市民に貢献すること。
  - 〈方法〉LOM内で策定された行動計画・行動マニュアルを理解し、日常的に防災意識を持つことで、非常時に機動的にかつ組織的に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行事	上程スケジュール	行事
2024年				
11月			6月	ASPAC(ウランバートル) オールメンバーの集い
12月	□討議 □協議(第3エリア合同例会計画)		7月	事業実施 サマーコンファレンス(横浜) 国際アカデミー
2025年				
1月	□討議 □審議(第3エリア合同例会計画)	京都会議	8月	九州地区大会(延岡)
2月		第3エリア合同例会	9月	
3月	□討議 □審議(第3エリア合同例会報告)		10月	出向者セミナー 全国大会(佐賀)
4月	□討議 □協議 □協議 □協議(事業計画)		11月	11月度通常例会 世界会議(チュニス)
5月	□討議 □審議 □協議 □審議(事業計画)	福岡ブロック大会(山門)	12月	送る夕べ 総会

# コミュニケーション推進委員会

## 委員会スローガン【love your neighbor ～隣人を愛せよ～】



### ●基本方針

1953年以来、これまで数多くの偉大な先輩方が福岡JCに在籍してきました。その長い歴史と伝統の上で、私たちは日々活動をしながら、多くの機会を頂いています。その機会の中でメンバーと苦楽を共にし、支えあうことで自分自身が成長し、本当の仲間と呼べるものが生まれます。その機会の幅をより広げるために、そしてそれを継承していくために、現役メンバーとシニアメンバーとの関わりが非常に重要です。

コミュニケーション推進委員会では、すべての趣味の会の企画、支援、設営を行います。趣味の会は、現役メンバーとシニアメンバーが、年代や委員会の垣根を越えて交流し、さまざまな話を伺える貴重な機会です。そのなかで古き良きJCを知り、他委員会の現役メンバーと横のつながりを持つこともできるため、より幅広い交流の機会を得ることができます。

ファミリーレクリエーション例会の企画設営においては、日頃のJC活動を支えるご家族にJCでの活動を知ってもらうことを目的として、例年参加率が低い傾向にある独身のメンバーにスポットを当て、例会への参加促進を行います。

そして、卒業生を送る夕べの企画設営においては、会員拡大委員会と連携し同窓会の運営等を行い、シニアメンバーとの交流の機会を創出することで新たな学びの場を作り、卒業生を送る夕べ当日の参加促進を行います。

また、5月度例会において会員間のビジネスにおけるスキル・情報共有を行う機会を作り、誰がどのような仕事をしていたといった強みがあるのか、これまで以上に共々過ごすメンバーのことを知って頂く機会を創出します。

最後に、JCの最大の魅力は「人」です。一つひとつの出会いが「人」の人生を変えるキッカケとなり、誰かのために率先して動いた結果が「人」の心を動かし、やがてLOMをも巻き込んだ大きなうねりを生み出します。そのキッカケとなる出会いの場を有意義でワクワクするものにし、一生集まるような委員会作りを行います。機会を捉え、共に成長し、福岡JCの未来を担う人財を輩出していきます。

### ●事業計画

◇会員間のビジネスにおけるスキル・情報共有の機会を創出する例会の実施(5月)

〈目的〉会員間のビジネスにおけるスキル・情報共有の機会を創出すること。

〈方法〉LOM内における同業種同士の情報共有を行う機会、またメンバーのスキルを共有できるような機会を創出する事業を行う。

◇ファミリーレクリエーション例会の実施(7月)

〈目的〉メンバーを支える家族へ感謝を伝えること。家族にJC活動を前向きに捉えてもらうこと。メンバー及び家族同士で交流し親睦を深めること。

〈方法〉LOMメンバーが一体となり家族の笑顔のために設営・運営を行う。また、福岡JCの活動を伝える機会をつくる。

◇送る夕べの企画・実施(12月)

〈目的〉福岡JCを卒業される60年生の皆様の新しい門出を、現役メンバーやシニアメンバーと共に祝いし、感謝と現役メンバーへの想いをつなげる場を企画・実施すること。

〈方法〉定期的に60年生との交流の場をつくることで卒業生同士の絆を深め、思い出深い送る夕べとなるように設営を行う。また、より多くのシニアメンバーや卒業生のご家族にも参加頂けるように参加促進を行う。

◇短縮例会の実施(7月・9月・12月)

〈目的〉LOMの進捗や方向性を確認すること。

〈方法〉効率的かつ円滑な運営ができるよう各委員会と連携を図り設営・運営を行う。

◇趣味の会に関する事項

〈目的〉シニアメンバーと趣味の会を通じて親睦を深める事。

〈方法〉各種趣味の会の会長、キャプテンと調整を図り、各会の運営補助、サポートを行う。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉LOMの成長とまちへの貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また、委員長のリーダーシップのもと、総括幹事が推進役を担う。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生したときに、機動的に災害支援を行い、被災地や被災された市民に貢献すること。

〈方法〉LOM内で策定された行動計画・行動マニュアルを理解し、日常的に防災意識を持つことで、非常時に機動的にかつ組織的に行動できるように努める。

委員長 岩切 拓也  
副委員長 羽川 礼華  
総括幹事 吉山 槇一  
運営幹事 清水 悠輔  
会計幹事 山田 依未  
広報幹事 葉山 裕樹  
楠原 さつき  
佐伯 瞳  
酒井 健青  
中野 篤志  
中野 連吾  
中村 凌  
針尾 洋平

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事	上程スケジュール	行 事	
2024年					
11月			6月	□討議□審議(5月度通常例会報告) □討議□協議(9月度短縮例会計画)	ASPAC(ウランバートル) オールメンバーの集い
12月			7月	□討議□審議(9月度短縮例会計画)	7月度短縮例会 事業実施(ファミリーレクリエーション) サマーコンファレンス(横浜) 国際アカデミー
2025年					
1月		京都会議	8月	□討議□審議(ファミリーレクリエーション報告) □討議□協議(12月度短縮例会計画) □討議□協議□協議(卒業生を送る夕べ計画)	九州地区大会(延岡)
2月	□討議□協議(5月度通常例会計画)	第3エリア合同例会	9月	□討議□審議(12月度短縮例会計画) □討議□審議□協議□審議(卒業生を送る夕べ計画)	9月度短縮例会
3月	□討議□審議(5月度通常例会計画)		10月		全国大会(佐賀)
4月	□討議□協議(7月度短縮例会計画) □討議□協議□協議□協議 (ファミリーレクリエーション計画)		11月		世界会議(チェニス)
5月	□討議□審議(7月度短縮例会計画) □討議□審議□協議□審議 (ファミリーレクリエーション計画)	5月度通常例会 福岡ブロック大会(山門)	12月		12月度短縮例会 事業実施(送る夕べ) 総会



室 長 寺 田 光 児

## ●基本方針

近年、人々の社会的価値観や経済の在り方が大きく変わってきました。技術の発展と共に変わりつつあるビジネスの形や、よりグローバルに成長しながら世界経済と対等に渡り合える知識、スキル、行動力を身につけ、それをまちへ還元できる人財や機会の創出が求められています。

一方で、大きな災害や諸外国との対応など、いつ起こるか分からない有事に対する体制の一層の強化に努めるだけでなく、市民の自助意識の啓発を図ることで「有事」へ取り組む機会を創出していかなければなりません。

我々意識開発室では、「より経済が発展する環境の醸成」と「有事に対して備える体制の強化」という二つの柱を軸にこれからの一年間活動していきます。この二つの柱は、より良い未来を福岡市にもたらすことができると考えます。また、この二つの柱を築く過程は、単純な街づくりではなく、優秀な人材を育成する人づくりであるとも考えられます。新たな未知のテーマに取り組むことが、福岡青年会議所のメンバーにとって何よりも大きな成長をもたらすことができ、それは同時に組織に新たな可能性をもたらすことができます。これらの新しい壁を乗り越えるために、新たな時代の波に乗り機動的に動ける組織、メンバーの育成が必要不可欠です。間違いなく高い壁ではありますが、その壁を乗り越えた先には、今までの自分の人生で体験することが出来なかった経験や成長の機会となり自己成長の第一歩に繋がる一年になります。

# ビジネスデザイン委員会

## 委員会スローガン【共に学び、共に成長、未来へつなぐ】



委員長 中井 新一  
副委員長 千種 祐香  
総括幹事 浦 佑希  
運営幹事 牛島 啓慈  
会計幹事 副田 直矢  
広報幹事 河津 凧  
坂下 利一郎  
島田 優二  
白水 雄二  
土井 勇太  
中村 正史  
服部 慎吾  
吉中 佑太

### ●基本方針

我々が活動する福岡市は、スタートアップ企業の成長を支援し、革新的なビジネスを創出する都市として注目されています。「スタートアップ都市宣言」を掲げ、企業家や起業家を国内外から呼び込み、ビジネスの成長を促進するための支援プログラムやインフラを整備しています。これにより、若い企業や革新技術が集まるエコシステムを構築し、アジアを代表するビジネス都市を目指しています。

テックが必要な背景は、ビジネスの効率化や競争力向上、そして急速な技術進化に対応するためです。グローバルな競争の激化、消費者ニーズの多様化、業務のデジタル化による効率性向上が求められる中、テクノロジーは企業や社会がこれらの変化に適応し、成長し続けるための重要なツールとなっています。また、AIやIoT、クラウドなどの技術が進化し続ける中、革新を促進し、データに基づいた意思決定を支援するためにテックは不可欠です。

新設された当委員会は、進化を続ける最先端テックを活用したビジネスの形を発信する事業を行います。

最先端テックをビジネスに用いる目的は、業務効率化や生産性向上を図り、新しい価値や市場を創出することで、競争力を強化し、持続的な成長を実現することです。青年会議所が未来への架け橋となり、地域の皆様とともに、豊かな社会を築き上げる一助となるよう、本年度活動を続けてまいります。

委員会運営においては、「共に学び、共に成長、未来へつなぐ」をスローガンに掲げ、ビジネスデザイン委員会全員でヒアリングから、事業計画、実施に向け行動していきます。

委員会メンバーには、変革を恐れずに挑戦し、地域と共に成長しながら、周りの人々を巻き込んで未来を創り出してほしいと思っています。共に歩む中で、次世代を切り拓く力強い人財を輩出していきます。

私たちが描くこの挑戦には、多くの人が期待し、未来への希望が詰まっています。さあ、メンバー全員で福岡に新たなムーブメントを起こす第一歩を踏み出しましょう！

### ●事業計画

◇最先端のテックなどを活用した経済を豊にする事業の実施

〈目的〉テックを活用し、地域の未来を切り開く新しい福岡を築く機会を創出する。

〈方法〉福岡が抱えている課題や問題を調査研究し、行政や他団体・専門家などと連携して、最先端テックについて意識を向上させる事業を実施する。

◇新たなビジネスをデザインするための公開例会の実施

〈目的〉テックを活用することで、地域は効率化と新たなビジネス創出が進み、住民の生活が便利で持続可能で豊かな地

〈方法〉テック分野の講師をお招きし、課題や取り組みを講演していただくこと。

◇サマーコンファレンス参加促進に関する事項

〈目的〉サマーコンファレンスへの参加促進と出向者の慰労をすること。

〈方法〉フォーラムとセミナーへの参加依頼、及びLOMナイトの開催。

◇トリオ締結60周年に関する事項

〈目的〉トリオJCとの交流を深め、より一層の関係強化の起点とする。

〈方法〉トリオJCとの共同で、トリオ締結60周年記念事業を実施すること。

◇香港シティJCに関する事項

〈目的〉香港シティJCとの関係強化及びLOMメンバーが国際的視野を広げる一助とすること。

〈方法〉オールメンバーの集いのアテンド。香港シティJC周年式典への参加促進。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉LOMの成長とまちへの貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また、委員長のリーダーシップのもと、総括幹事が推進役を担う。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生したときに、機動的に災害支援を行い、被災地や被災された市民に貢献すること。

〈方法〉LOM内で策定された行動計画・行動マニュアルを理解し、日常的に防災意識を持つことで、非常時に機動的にかつ組織的に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2024年					
11月			6月		事業実施 香港シティJC周年 ASPAC (ウランハートル) オールメンバーの集い
12月			7月		サマーコンファレンス(横浜) 国際アカデミー
2025年					
1月	□討議□協議(3月度公開例会計画)	京都會議	8月	□討議□審議□協議□審議(事業報告)	九州地区大会(延岡)
2月	□討議□審議(3月度公開例会計画)		9月		
3月	□討議□協議□協議□協議(事業計画)	3月度公開例会実施	10月		全国大会(佐賀)
4月	□討議□審議□協議□審議(事業計画)		11月		世界会議(チェニス)
5月	□討議□審議(3月度公開例会報告)	福岡ブロック大会(山門) 下関JC周年 トリオ会議	12月		送る夕べ 総会

# レジリエンス向上委員会

## 委員会スローガン【一味同心・一意専心】

### ●基本方針

地震や豪雨などの自然災害、紛争などの地政学リスクといった様々な「有事」に対する「備え」は、明るい豊かなFUKUOKAを実現する上で非常に重要です。その一方で、我々は現時点においてどれだけの「備え」ができていのでしょうか。まずは一人一人の意識改革を行い、それを日常において実践していくことが必要であり、その契機となるように、既にそれらの分野で活動している行政や他団体と連携し、かつ、福岡青年会議所だからこその事業を実施する必要があります。また、能登半島地震の際には日本青年会議所において翌日から物資の提供を行うなど、即断即決、即実行というスピード感のある対応がなされており、福岡青年会議所においても機動力をもってまちを牽引する団体となるべきであると考えます。

当委員会の所務においては、活動の根底となる背景や目的を明確にするためにも調査研究やヒアリングを行い、事業構築においてはその分野の第一線で活躍する組織団体などと連携し事業構築を行います。また、最先端かつ第一線のレジリエンスとは何かを突き詰めつつも、なぜそれが浸透していないのか、どこまで浸透しているのかなどをしっかりと整理し、事業実施における効果がしっかりと検証できる事業を行います。

そして、事業に対する市民の共感を生み出し、浸透させていくためにも「この事業を通じて、地域がどう変わるのか」「自分たちの生活にどんなメリットがあるのか」をわかりやすく発信し、市民が主体的に参加できる手法を取り入れることで、新たな知識や経験の機会を提供するだけでなく、日常生活に落とし込めるよう当事者意識を醸成する意識改革の機会が提供できるように務めます。

委員会運営においては、常日頃から、お互いの立場を尊重しながらも本音で話すことと有言実行することを大切に、メンバー同士の絆を深め、団結力をもって所務に臨みます。メンバーが委員会や事業にワクワクできるように、ヒアリングから事業実施に至るまで全員を巻き込みながら、自らの探求心を芽生えさせ、それを満たせる機会を作り出します。そこで生まれた団結力は事業を成功に導くだけでなく、福岡JCの基盤を強固にする組織づくりに大きく貢献するものと確信しています。

最後に、1年を通じて、楽しく集いながらメンバー同士が忌憚のない発言や意見交換を行い、また率先して行動するマインドを醸成し、福岡青年会議所の未来を担う次世代のリーダーを育成してまいります。

### ●事業計画

#### ◇市民の有事に対する備えへの意識を向上させる事業の実施

〈目的〉有事に対する備えの重要性を啓発し、「有事」へ取り組み機会を創出すること。

〈方法〉福岡が抱えている課題や問題を調査研究し、行政や他団体・専門家などと連携して有事に対する備えについて意識を向上させる事業を実施する。

#### ◇有事に対する備えに関する公開例会の実施

〈目的〉有事に対する備えの重要性を啓発し、日常生活に活かせる取組み手法を発信すること。

〈方法〉有識者を講師としてお招きし、有事の際の課題や取り組みを講演していただくこと。

#### ◇トリオ締結60周年に関する事項

〈目的〉トリオJCとの交流を深め、より一層の関係強化の起点とすること。

〈方法〉トリオJCと共同でトリオ締結60周年記念事業を実施すること。

#### ◇釜山JCに関する事項

〈目的〉釜山JCとの関係強化及びLOMメンバーが国際的視野を広げる一助とすること。

〈方法〉オールメンバーの集いのアテンド。釜山JC周年式典への参加促進。

#### ◇非常災害時におけるLOM内の行動計画の策定・推進

〈目的〉非常災害が発生した時に、LOM単位でどのような支援ができるのか、その支援のためにどのようなルール作りが必要かを調査研究して、行動計画を策定し、LOM内の周知を行うこと。

〈方法〉現状の定款の実行性や機動性について検討し、他LOMの規定などを参照して実行性のある行動計画を策定する。行動計画がLOM内に浸透するように周知活動を行う。

#### ◇LOMの非常災害時の行動マニュアルの作成

〈目的〉非常災害が発生した時に、行動計画に則って、迅速に災害支援を行なえるよう行動マニュアルを策定し、LOM内の周知を行うこと。

〈方法〉行動計画に則って、実働可能な行動マニュアルを策定する。行動マニュアルがLOM内に浸透するように周知活動を行う。

#### ◇研修に関する事項

〈目的〉仮入会者への指導・研修をし、次世代のメンバーの育成をする。

〈方法〉オリエンテーションを通して修練・奉仕・友情を経験させる。また、オブザーブなどにより正会員のメンバーとの交流、そして福岡JCの魅力を発信する。

#### ◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉LOMの成長とまちへの貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また、委員長のリーダーシップのもと、総括幹事が推進役を担う。



委員長 西方 亮 祐  
副委員長 近藤 瑛 理  
総括幹事 長島 義 弘  
運営幹事 大和 尚 之  
会計幹事 米村 祐 太  
広報幹事 平川 靖 徳  
阿部 秀 樹  
池田 翔 一  
尾花 一 樹  
川島 裕 司  
坂梨 高 介  
西原 宗 佑  
松岡 大 輝

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2024年					
11月		釜山JC周年	6月	□討議□審議(4月度公開例会事業報告)	ASPAC(ウランバートル)オールメンバーの集い
12月			7月		事業実施 サマーコンファレンス(横浜) 国際アカデミー
2025年					
1月	□討議□協議(4月度公開例会計画)	京都会議	8月		九州地区大会(延岡)
2月	□討議□審議(4月度公開例会計画)	第3エリア合同例会	9月	□討議□審議□協議□審議(事業報告)	
3月			10月		全国大会(佐賀)
4月	□討議□協議□協議□協議(事業計画)	4月度公開例会実施	11月		釜山JC周年 世界会議(チュニス)
5月	□討議□審議□協議□審議(事業計画)	福岡ブロック大会(山門) 下関JC周年 トリオ会議	12月		送る夕べ 総会



室長 小柳 佑貴

## ●基本方針

2022年にこども未来都市宣言を提言し、約3年間福岡青年会議所はFUKUOKAのまちの未来の可能性のために活動を行ってきました。

ですが、その活動は福岡青年会議所のメンバー一人ひとりが、能動的に行動することができていたでしょうか。

2024年10月に全国大会 福岡大会という大きな機会を得ることができた私たちは、よりこれからのFUKUOKAの笑顔溢れるまちを実現していくために、私たちは次のステージに進んでいかなければなりません。

こども未来創造室では、福岡青年会議所の歴史や文化を通じて、活動や運動に共感を生み出し、福岡青年会議所だからこそ築くことができたパートナーシップの関係性を最大限に活かして、福岡に住まう子どもたちに大きなインパクトを残し、自分たちが住み暮らすまちの魅力と価値を認識してもらい、福岡の輝かしい未来を創造することのできる新たな事業を展開します。

FUKUOKAのまちの可能性のために、一人ひとりが型にハマることなく挑戦し、能動的に行動を起こすことのできる福岡JCをつくっていきます。

# グローバルシティ創造委員会

## 委員会スローガン【Think different】



委員長 濱田 正輝  
副委員長 田中 海人  
総括幹事 松元 和洋  
運営幹事 高田 諭  
会計幹事 吉田 伸彦  
広報幹事 山田 明仁  
安部 亮二  
古賀 彩華  
最所 隼人  
濱野 雅行  
松尾 恵介  
村上 瑤也  
山田 哲也

### ●基本方針

福岡青年会議所は2022年に『こども未来都市宣言』を作成し、行政に対して提言を行いました。まちが更に発展して行くため、まちの未来を担う子供たちが様々な環境で活躍できる環境を作って行かなければなりません。

福岡は古くから『アジアの玄関口』として発展して参りました。福岡市がアジアのリーダー都市を目指す中、福岡青年会議所の『こども未来都市宣言』のグローバルシティの中でも、アジアNo.1のグローバル都市を掲げております。この先5年後、10年後この福岡のまちがアジアNo.1都市となるためにも、今以上にグローバルな人財が必要です。

グローバル人財とは、コミュニケーションはもちろんのこと多様なバックグラウンドを持つ人々と交流する事で新しい価値観を創出することが出来る人財です。

未来を担う子供たちのために、リアルな国際交流の機会をより創出して、世界経済と渡り合うための知識、スキル、行動力を身につけてもらいます。多くのアイデアが生み出され、これからのFUKUOKAのまちに住み暮らす一人ひとりの幸福度を向上させていくために、活動が運動へと変わっていくようなインパクトのある一大事業を構築していきます。

当委員会では、まずはメンバー一人ひとりがグローバルな人財になるためのきっかけとして海外JCとのパートナーシップをより強固なものとする国際交流の機会を創出します。

信頼関係を構築し、心から仲間と想える友を作ります。国際交流の機会を通じて、新たな気づきや学び、そしてメンバーの成長へと繋げてまいります。

委員会メンバーがこの1年間の活動や事業、また国際交流で得た経験をLOMに波及させることで、個人の成長、団体の成長へと繋げ、新たなリーダーを輩出して参ります。

### ●事業計画

◇グローバルシティを推進していく事業の実施（室同時開催事業）

〈目的〉グローバルを通じて、共感を生み出し、活動を運動に変えて自分たちが住み暮らすまちを再認識してもらうこと。

〈方法〉リアルな国際交流の機会をより創出して、世界経済と渡り合うための知識、スキル、行動力を身につけてもらいます。

◇2025年度全国大会（佐賀）に関する事項

〈目的〉全国大会（佐賀）の参加を促し、卒業される60年生の想いを引き継ぐ機会を作り出すこと。

〈方法〉全国大会の各種行事を案内し、全国大会のプログラムに参加いただくことで大会の意義であるJC運動の一年の集大成を共有する。またLOMナイトでは卒業生の皆様の記憶に残るLOMナイトを設営する。

◇全国大会佐賀大会に合わせた短縮例会（10月）

〈目的〉佐賀の地で、LOMの進捗や方向性を確認し、全国大会佐賀大会への参加を促進すること。

〈方法〉全国大会佐賀大会の会場付近で、短縮例会を開催し、一人でも多くの参加者を増やし、効率的かつ円滑な運営ができるよう各委員会と連携を図り設営・運営を行う。

◇サウスサイゴンJCに関する事項

〈目的〉サウスサイゴンJCとの関係強化及びLOMメンバーが国際的視野を広げる一助とすること。

〈方法〉オールメンバーの集いのアテンド、サウスサイゴンJC周年式典への参加促進。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉LOMの成長とまちへの貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また、委員長のリーダーシップのもと、総括幹事が推進役を担う。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生したときに、機動的に災害支援を行い、被災地や被災された市民に貢献すること。

〈方法〉LOM内で策定された行動計画・行動マニュアルを理解し、日常的に防災意識を持つことで、非常時に機動的にかつ組織的に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2024年					
11月			6月	□討議□審議□協議□審議（室同時開催事業報告）	ASPAC（ウランバートル） オールメンバーの集い
12月			7月	□討議□協議（全国大会 佐賀大会短縮例会計画）	サマーコンファレンス（横浜） 国際アカデミー
2025年		京都会議	8月	□討議□協議（全国大会 佐賀大会短縮例会計画）	九州地区大会（延岡）
1月					
2月	□討議□協議□協議□協議（室同時開催事業計画）	第3エリア合同例会	9月		
3月	□討議□審議□協議□審議（室同時開催事業計画）		10月		全国大会（佐賀） 短縮例会 サウスサイゴンJC周年
4月			11月	□討議□審議（全国大会 佐賀大会短縮例会報告）	世界会議（チェニス）
5月		室同時開催事業 福岡ブロック大会（山門）	12月		送る夕べ 総会

# アートシティ創造委員会

## 委員会スローガン【Challenge～少しの背伸びの連続～】



委員長 小菅 良助  
副委員長 倉掛 裕輔  
総括幹事 上野 誠司  
運営幹事 本園 和太  
会計幹事 高 柰 浩世  
広報幹事 樋口 春菜  
加地 英紀  
合谷 賢太  
佐藤 大輔  
高田 友美子  
平野 由衣  
三重野 翔太  
薬師 雅実

### ●基本方針

私たちが住み暮らす福岡は、全国でも数少ない人口が増加している都市で、経済的にも発展し続けていて、多くの歴史や文化が受け継がれ続けています。また、福岡市では「Fukuoka Art Next」として、市民がアートに触れる機会を増やし、アーティスト活動を支援していく施策に力を入れています。

その結果まちを見ると歴史や文化に触れる機会は増えてきており、以前と比べるとアートが身近な存在になっています。しかし、私たちが、それによって幸福度が向上されていると感じる状況までには至っていないのが実情です。アートは、自由な発想で考え、個人がもつ創造力や発想力を伸ばしていくためにも必要不可欠なものであり、他人と比べるものではなく、自由に表現し、作る人も見る人も幸せを感じられるものであるべきです。福岡JCとしても、2022年に「こども未来都市宣言」を提言し、アートシティを推奨しています。本年度は提言から3年目となり、一つの節目として、大きなインパクトを作り出していきます。

そのためには、福岡JCで過去行った事業で、繋がった行政・企業・団体との関係性をより深くし、青年らしく型にハマることなく挑戦していくことです。

私たちがやりたいことだけではなく、共感を生み出すことで、子どもたちがこれからも福岡に住み続けたい、福岡をもっとよくしていきたいという「夢」となって、これからのワクワクするFUKUOKAのまちの魅力を発信していくことができる事業を構築します。

当委員会は、小さくてもいいから挑戦をし続ける委員会でありたいと考えています。もう少しだけ頑張ってみようと思ふ背伸びをすることが、1年経った時に大きな違いを作り出すと信じています。一緒に楽しみながら、汗かきながら活動していこう。

私たちは、福岡のまちがアートで溢れる未来を作り出すために活動していきます。

### ●事業計画

#### ◇アートシティを推進していく事業の実施（室同時開催事業）

〈目的〉アートを通じて、共感を生み出し、活動を運動に変えて自分たちが住み暮らすまちを再認識してもらうこと。

〈方法〉自由に描き、表現する場を作るとともに、他の子ども達や若手アーティストが描いた作品を手にとることで、アートの魅力を感じる環境を創出します。

#### ◇2025年度全国大会（佐賀）に関する事項

〈目的〉全国大会（佐賀）への参加を促し、卒業される60年生の想いを引き継ぐ機会を作り出すこと。

〈方法〉全国大会の各種行事を案内し、全国大会のプログラムに参加いただくことで大会の意義であるJC運動の一年の集大成を共有する。またLOMナイトでは卒業生の皆様の記憶に残るLOMナイトを設営する。

#### ◇全国大会佐賀大会に合わせた短縮例会（10月）

〈目的〉佐賀の地で、LOMの進捗や方向性を確認し、全国大会佐賀大会への参加を促進すること。

〈方法〉全国大会佐賀大会の会場付近で、短縮例会を開催し、一人でも多くの参加者を増やし、効率的かつ円滑な運営ができるよう各委員会と連携を図り設営・運営を行う。

#### ◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉LOMの成長とまちへの貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また、委員長のリーダーシップのもと、総括幹事が推進役を担う。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生したときに、機動的に災害支援を行い、被災地や被災された市民に貢献すること。

〈方法〉LOM内で策定された行動計画・行動マニュアルを理解し、日常的に防災意識を持つことで、非常時に機動的にかつ組織的に行動できるように努める。

## 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事	上程スケジュール	行 事
2024年				
11月			6月	□討議□審議□協議□審議（室同時開催事業報告） ASPAC（ウランバートル） オールメンバーの集い
12月			7月	□討議□協議（全国大会 佐賀大会短縮例会計画） サマーコンファレンス（横浜） 国際アカデミー
2025年		京都会議	8月	□討議□審議（全国大会 佐賀大会短縮例会計画） 九州地区大会（延岡）
2月	□討議□協議□協議□協議（室同時開催事業計画）	第3エリア合同例会	9月	
3月	□討議□審議□協議□審議（室同時開催事業計画）		10月	全国大会（佐賀） 短縮例会
4月			11月	□討議□審議（全国大会 佐賀大会短縮例会報告） 世界会議（チェニス）
5月		室同時開催事業 福岡ブロック大会（山門）	12月	送る夕べ 総会

# アクションスポーツシティ創造委員会

## 委員会スローガン【行動力】



委員長 浦田 慎也  
副委員長 舩田 和博  
総括幹事 渡邊 裕太郎  
運営幹事 前田 隆一郎  
会計幹事 石井 光  
広報幹事 下川 浩平  
坂田 圭未  
津田 浩  
中原 有典  
新納 裕美子  
松田 敦朗  
三浦 匠

### ●基本方針

福岡市は2010年に策定したスポーツ振興計画を通じ、子どもを含む多様なスポーツ施策を推進しています。しかし、依然として指導者不足やアクションスポーツを行うための環境の整備、カルチャー面での認識不足が課題として残っています。

これらの問題を解決するためには、アクションスポーツの魅力を広め、適切に行える環境を整えることが必要です。それには、子どもたちと向き合う大人としての姿勢が重要であり、十分なサポートが必要不可欠と考えます。

アクションスポーツは、楽しさと挑戦を通じて多くの成長の機会を提供します。自分の可能性を信じ、クリエイティブな表現力の向上と自分自身のスタイルを見つけ、自由な発想で表現できる力を育むことができます。

私自身、2024年はスポーツ文化創造委員会の副委員長として、関係各所との連携を取ってきましたが、当日の悪天候により事業が行えませんでした。今後の活動を運動へと繋げられるような強固なパートナーシップを築くことができました。さらに福岡JCは全国大会という機会を得て、先輩方、行政や関係各所とのこれまで築いてきた関係性をより強くすることができました。これを目の前のまちの課題解決のために活かし、FUKUOKAのひとつづくり、まちづくりへと繋げていかなくてはなりません。

昨年、一昨年の活動があったからこそ生み出すことができる大きなインパクトをまちへ、ひとへ発信する事業を構築します。

当委員会では、メンバー一人ひとりが行動力を持ち、人のために苦手なことにも立ち向かう姿勢を育むよう努めます。本気の遊び心を持ち、無駄と思えることでも、楽しむことを原動力に共感して自然に人財が集まる委員会を目指します。

個々の成長と組織の進化は不可欠です。様々な学びのあるJCだからこそ、行動することで多様で柔軟な人財が育成されます。これにより、LOM全体の活力を高めていきます。

### ●事業計画

◇アクションスポーツシティを推進していく事業の実施（室同時開催事業）

〈目的〉スポーツを通じて、共感を生み出し、活動を運動に変えて自分たちが住み暮らすまちを再認識してもらうこと。

〈方法〉クリエイティブな表現力の向上と自分自身のスタイルを見つけ、自由な発想で表現できる力を育むことができる成長の機会を創出します。

◇2025年度全国大会（佐賀）に関する事項

〈目的〉全国大会（佐賀）への参加を促し、卒業される60年生の想いを引き継ぐ機会を作り出すこと。

〈方法〉全国大会の各種行事を案内し、全国大会のプログラムに参加いただくことで大会の意義であるJC運動の一年の集大成を共有する。またLOMナイトでは卒業生の皆様の記憶に残るLOMナイトを設営する。

◇全国大会佐賀大会に合わせた短縮例会（10月）

〈目的〉佐賀の地で、LOMの進捗や方向性を確認し、全国大会佐賀大会への参加を促進すること。

〈方法〉全国大会佐賀大会の会場付近で、短縮例会を開催し、一人でも多くの参加者を増やし、効率的かつ円滑な運営ができるよう各委員会と連携を図り設営・運営を行う。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉LOMの成長とまちへの貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また、委員長のリーダーシップのもと、総括幹事が推進役を担う。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生したときに、機動的に災害支援を行い、被災地や被災された市民に貢献すること。

〈方法〉LOM内で策定された行動計画・行動マニュアルを理解し、日常的に防災意識を持つことで、非常時に機動的にかつ組織的に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2024年			6月	□討議□審議□協議□審議（室同時開催事業報告）	ASPAC（ウランバトル） オールメンバーの集い
11月			7月	□討議□協議（全国大会 佐賀大会短縮例会計画）	サマーコンファレンス（横浜） 国際アカデミー
12月			8月	□討議□審議（全国大会 佐賀大会短縮例会計画）	九州地区大会（延岡）
2025年		京都会議	9月		
1月			10月		全国大会（佐賀） 短縮例会
2月	□討議□協議□協議□協議（室同時開催事業計画）	第3エリア合同例会	11月	□討議□審議（全国大会 佐賀大会短縮例会報告）	世界会議（チェニス）
3月	□討議□審議□協議□審議（室同時開催事業計画）		12月		送る夕べ 総会
4月					
5月		室同時開催事業 福岡ブロック大会（山門）			



室 長 鶴 和 晃

## ●基本方針

現在、福岡青年会議所の会員減少は明白となっており、また団体としての意義が問われています。全国大会福岡大会を成功に導いた福岡JCだからこそ、私たちの活動や運動に共感できる多くの仲間を見つけることができます。そして、未来の福岡JCを支える人財へと育成し成長させる必要があります。

多くの経験を持つシニアとの交流や委員会を超えての連携は、LOMを挙げての重要な取り組みとなります。そして「会員拡大委員会」「研修委員会」の両委員会は、新しいメンバーと出会う委員会だからこそ、まずは自分自身が団体の活動や運動に共感できていなければなりません。その共感をこれから出会うメンバーに伝えていくことが入会率向上につながり、福岡JCとして同じ志をもつ人財を育成していきます。

会員開発室は、「会員拡大委員会」「研修委員会」共にこれまで受け継がれた伝統や経験を尊重しつつ、多角的に調査研究をし、持続可能な組織としていくために変えていくべきところは変えていく、未来のLOMのため、まちのやひとのために拡大・育成するよう取り組んでまいります。

# 会 員 拡 大 委 員 会

## 委員会スローガン【JC 活動を通して、人生を豊かにする】



委員長 千代田 明 久  
副委員長 前田 幹 太  
総括幹事 中川 昂 大  
運営幹事 竹田 一 国  
会計幹事 水城 寛 司  
広報幹事 倉富 大 樹  
安澤 慎 司  
今泉 孝太郎  
内野 蓉 子  
亀元 友 弥  
熊澤 瑞 稀  
下坂 豪太朗  
村津 万 里

### ●基本方針

2025年に200人を切る可能性があるLOMの現状を鑑みると、LOMにとって会員拡大は至上命題となっています。我々は、これまで福岡青年会議所を築き上げてきた先輩方と、我々自身が取り組んできた活動が正しかったことを証明する為にも、会員拡大に取り組まなければなりません。その為に、JC活動を通して、現役中、もしくは卒業後にJC入って良かったと思えるメンバーを増やしていくことが拡大目標達成への最短ルートだと考えます。

同時に、時代の変化に合わせて、前時代的なルール・慣習も改めていかないとはいけません。多種多様な年齢・性別・国籍・職種・ライフスタイルを持つ、メンバーが安心安全に、成長の機会を得ることが出来るJCに進化していかなくてはなりません。

その上で、自己成長したい、自分たちが住むこの街を良くしたい。そんな想いを持った仲間を拡大し、これからの福岡青年会議所の礎を作ってまいります。

本年度、拡大目標を140名(各委員会10名、執行部20名)とし、下記の通り、拡大計画を策定のうえ実行していきます。また次年度以降、さらに拡大が福岡青年会議所全体で効果的に実施出来るよう、会員拡大の仕組みを構築します。

次に、シニアに関してです。シニアは、今日の福岡青年会議所を築き上げてきた偉大な先輩方であり、我々会員拡大委員会に取って大切な拡大候補者供給源でもあります。シニア総会や、趣味の会や送る夕べを担当するコミュニケーション推進委員会との連携を強化し、シニアとの交流を活発化し、会員拡大に繋げていきます。

委員会メンバーが会員拡大を通して、JC活動の意義や目的を理解し、楽しみ、多くのメンバーに普及出来るような人財にポジティブチェンジ出来るきっかけ、機会を提供し続けます。一年間どうぞ宜しくお願い致します。

### ●事業計画

#### ◇会員拡大に関する事項

〈目的〉仮入会者数を増やす。

〈方法〉拡大会議の実施、各委員会との連携、各種団体(BNI、福岡商工会議所)との連携企業リストの活用、相談会をオムニチャンネルで実施。

#### ◇72周年式典の企画・実施

〈目的〉72周年を契機とした内外問わない関係者へと発信する式典・事業を通して、これからのJC活動への機運を高めること。

〈方法〉毎年開催されてきたオールメンバーを、これまで同様、周年のお祝い、現役と姉妹LOMとの交流の場、シニアとの交流の場とするか調査・検証を行う。

#### ◇短縮例会の実施(6月)

〈目的〉LOMの進捗や方向性を確認すること。

〈方法〉効率的かつ円滑な運営ができるよう各委員会と連携を図り設営・運営を行う。

#### □シニア交流会の企画・実施

#### ◇シニアクラブに関する事項

〈目的〉シニアとの交流の場を設けることで、経験を継承し、事業に活かし、会員拡大にも繋げていく。

〈方法〉効率的かつ円滑な運営ができるよう関係委員会と連携を図り設営・運営を行う。

#### ◇短縮例会の実施(6月)

〈目的〉Lシニア総会開催の補助をし、本会の中で前年度の会計報告ならびに本年度の活動内容をお伝えするとともに交流を図る。またJC福岡の発展の為に、拡大の依頼をする。

〈方法〉メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また、委員長のリーダーシップのもと、総括幹事が推進役を担う。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生したときに、機動的に災害支援を行い、被災地や被災された市民に貢献すること。

〈方法〉LOM内で策定された行動計画・行動マニュアルを理解し、日常的に防災意識を持つことで、非常時に機動的にかつ組織的に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2024年					
11月			6月		ASPAC(ウランバートル)オールメンバーの集い 72周年式典
12月			7月	□討議 □審議(72周年式典報告)	サマーコンファレンス(横浜) 国際アカデミー
2025年					
1月		京都会議	8月		九州地区大会(延岡) 後期仮入会締切
2月		第3エリア合同例会 シニア総会	9月		
3月	□討議 □協議(72周年式典計画)		10月		全国大会(佐賀)
4月	□討議 □審議(72周年式典計画)	中期仮入会締切	11月		世界会議(チェニス)
5月		福岡ブロック大会(山門)	12月		送る夕べ 総会

# 研 修 委 員 会

## 委員会スローガン【出会いと気づきで育む利他の心】



委員長 國松 祥治  
副委員長 高見 慎也  
総括幹事 市丸 浩太  
運営幹事 松山 馨  
会計幹事 林 伸太郎  
広報幹事 篠崎 絵理  
池田 英樹  
石川 卓弥  
河野 秀平  
正岡 憲

### ●基本方針

当委員会は仮入会のメンバーがJCの三信条、「修練・奉仕・友情」のもとJC活動やJC運動に触れ、福岡青年会議所で初めて共に事業を行う委員会です。仮入会として体験するメンバーは初めての経験に、戸惑うこともあると思いますが、共に同じ体験をする中で、同じ世代の青年が集まり活動を通して、修練や奉仕を一つひとつ経験することで自己啓発に繋がり、その修練の大きさを絆に変えて、メンバー同士を結ぶ友情があることに気づくことができます。仮入会のメンバーが自発的に入会を希望し、更に福岡JCの活動に共感を持ってもらえる研修を実施しなければなりません。

そのためには本年度理事長が掲げる青年らしい挑戦とワクワクする本気の遊び心で、新たな研修を構築し、参画してくれる仮入会者やメンバーたちがさらに体験したいと思える機会を提供していきます。研修は対象者を育て、前向きになってもらう側面とは別に、私たち自身も大きく成長できる大きなチャンスでもあります。いかに相手を想い、事業を構築し、実行できるかを考え、最大限に努力する。私たちが本気で楽しんでワクワクすることで、委員会のメンバーが大きく成長する機会とします。

研修としての所務は膨大にあるからこそ、どのメンバーも参画する機会に恵まれている委員会です。だからこそ共に活動し、一年しかないこの限られた時間を、新たなリーダーの原石たちと出会い、共に磨き合う楽しさを体感しましょう。

我々が活動できるのは会社や家庭の理解のうえに成り立っています。基盤となる経済を整え、家族の幸福に費やす時間を確保し、その上でJC活動ができることを感謝することが大切です。

志同じくする仲間と共に、新たな出会いで自分自身を磨き、人のため、まちのため、経験豊かなリーダーを育成し輩出します。

### ●事業計画

#### ◇仮入会者への指導・研修に関する事項

〈目的〉感恩報謝の心を培い「利他の精神」で行動するJAYCEEの自覚を早期に養い、新たな時代へ導く強い責任と覚悟で率先して行動する仲間を輩出する。

〈方法〉オリエンテーションでは、学びや出会いを通して多くの気づきを与え、JCの三信条（修練・奉仕・友情）を経験させ、正会員との交流を通してJCの伝統や精神・魅力を伝える。

#### ◇新入会者同期会事業に関する事項

〈目的〉新入会がJC事業の本質を学ぶとともに、同期の友情と結束を強くする。

〈方法〉研修委員会と1年前に入会した同期会の指導の下、事業構築のルールを学び自らが考え、時代の変化に対して柔軟に対応した事業の企画・実施をする。

#### ◇やすらぎ荘を含む障がい児・者支援に関する事項

〈目的〉やすらぎ荘事業に新たな社会福祉・ボランティア活動を考え、利他の精神を学ぶ場とする。

〈方法〉新入会者3同期会を中心に、やすらぎ荘の意見を踏まえ協議・連携を行い、これから更に発展できる事業を構築する。

#### ◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉LOMの成長とまちへの貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また、委員長のリーダーシップのもと、総括幹事が推進役を担う。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生したときに、機動的に災害支援を行い、被災地や被災された市民に貢献すること。

〈方法〉LOM内で策定された行動計画・行動マニュアルを理解し、日常的に防災意識を持つことで、非常時に機動的にかつ組織的に行動できるように努める。

## 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2024年 11月	□討議□協議（前期オリエンテーション事業計画）		6月		中期オリエンテーション① ASPAC（ウランバートル） オールメンバーの集い
12月	□討議□審議（前期オリエンテーション事業計画）		7月	□討議□協議（後期オリエンテーション事業計画） □討議□協議□協議□協議（やすらぎ荘事業計画）	中期オリエンテーション② サマーコンファレンス（横浜） 国際アカデミー
2025年 1月	□討議□討議□討議□討議 （とことん事業計画・後期仮入会）	京都会議	8月	□討議□審議（後期オリエンテーション事業計画） □討議□審議（やすらぎ荘事業計画）	中期オリエンテーション③ 居酒屋の青春 前期仮入会ととことん事業 九州地区大会（延岡）
2月		前期オリエンテーション① 第3エリア合同例会	9月	□討議□討議□討議□討議 （とことん事業報告・前期仮入会）	
3月	□討議□協議（中期オリエンテーション事業計画）	前期オリエンテーション②	10月	□討議□審議（中期オリエンテーション事業報告）	後期仮入会オリエンテーション① 全国大会（佐賀） やすらぎ荘事業
4月	□討議□審議（中期オリエンテーション事業計画） □討議□討議□討議□討議 （とことん事業報告・後期仮入会）	前期オリエンテーション③ 居酒屋の青春 2024年後期仮入会ととことん事業	11月		後期仮入会オリエンテーション② 中期仮入会ととことん事業 世界会議（チェニス）
5月	□討議□討議□討議□討議 （とことん事業計画・前期仮入会） □討議□審議（前期オリエンテーション事業報告）	福岡ブロック大会（山門）	12月	□討議□審議（後期オリエンテーション事業報告） □討議□討議□討議□討議 （とことん事業報告・中期仮入会） □討議□審議（やすらぎ荘事業報告）	後期オリエンテーション③ 居酒屋の青春 送る夕べ 総会



室長 立部 真康

## ●基本方針

福岡JCの根幹を担う総務室では、数えきれないほどの諸先輩方の経験の下、厳格なルールを定め、受け継がれてきたプロトコルを守り日々活動を続けています。

しかしながら、時代は変わり多様性あふれる社会へと変わり、社会も日々変化し続けている中で、福岡JCの組織運営が時代に即していると言えなくなっているのではないのでしょうか。

目まぐるしく時代が移り変わる今、諸先輩方が築き上げてきた大切な伝統を重んじることは当然のことながら、さらに進化するべく現代に適応した新たな組織改革が必要であり、10年後、20年後の福岡JCを担う後輩たちを想い、まず我々が一步踏み出す必要があると考えます。

総務室では、厳格なルールのもと、組織運営の根幹を支える室としての自覚と責任をもち、これまで受け継がれてきた想いを大切に、組織運営の在り方について新たな一步を示します。

本年度、組織の在り方について考える大きな機会をチャンスと捉え、組織マネジメント委員会、総務財政規則委員会の両委員会が、これまでの常識にとらわれることなく導き出す答えが今後の組織運営の新たな礎を築き、メンバーたちの活動がよりポジティブとなり、自分自身の成長へと繋がる事で更に飛躍する1年となるべく熱い想いをもって邁進致します。

# 組織マネジメント委員会

## 委員会スローガン【Think Different】



委員長 坪井 智之  
副委員長 吉丸 耕平  
総括幹事 藤岡 勇樹  
運営幹事 安心院 将平  
会計幹事 黒木 祐太  
広報幹事 近藤 桃香  
井ノ口 翼  
中間 悠介  
新納 尚祐  
濱 直章  
林 美奈  
本間 晃平  
山野 晋

### ●基本方針

2024年度福岡JCは、51名の卒業生を輩出することになり、2025年度期首の人数は200人を切り、180名程度でのスタートとなる予定となっております。

会員数の減少に伴い、福岡JCの運営に様々な影響が生じており、現状に合った組織体として福岡JCの在り方を見つめ直し、組織を変革させていく必要があります。

福岡JCは2024年に全国大会を大成功へ導き、会員同士の絆を深め、メンバー一人ひとりに大きな成功体験を得ることができました。この絆や成功体験を組織運営に活かし、福岡JCの会員数の増加のみならず会員の質をこれまで以上に高めるべく、定款変更や組織変革を実施していきます。

また、組織の変革を考える際に若い世代のアイデアは、我々福岡JCメンバーが持っていない発想を与え、新たな発見を生み出す機会になります。他方で、若い世代の各種団体と連携を図り相互に高め合うことで、福岡JCの活動、運動に共感を生み、10年後、20年後の福岡JCの活動を支える人財を生み出すことに繋がります。

当委員会では、まずは、委員会メンバー一人ひとりが現状の福岡JCの問題点や課題を把握し、これまでの福岡JCの残していくべき点と変革していくべき点を熟考し行動していきます。その過程で福岡JCだけでなく全国のLOMがどのような組織運営をしているのかを知ることで、どのようにして時代に沿った組織変革を実施することができるかを学びます。

そして、町や人から求められる組織について考え、経験していく中で、組織変革を導ける行動力溢れるリーダーへとメンバー一人ひとりが成長できる機会を提供します。

その成長を各々が自社にもちかえり自社の課題発掘、運営、変革をできる人材に育つような学びある委員会を実現します。

### ●事業計画

◇未来を担う若い人材を育成することのできる施策の実行

〈目的〉若い世代に福岡JCにおける学びの機会を提供することで、将来の会員候補である若い世代に福岡JCの魅力を周知すること。

〈方法〉学生団体等と福岡JCを結び付け、互いに連携を図り、若い世代の人材が福岡JCの活動、運動に参加する機会を提供します。

◇新春例会の実施

〈目的〉新春の門出を祝い、理事長の所信をきくことで2025年度の福岡JCの方向性を理解し活動意欲を高めること。

〈方法〉御来賓の皆様をはじめ、全メンバーが集うための参加促進を行い、厳粛かつ華やかな雰囲気の中行えるよう設営・運営を行う。

◇会員向けリーダーシップ研修を行う例会の実施

〈目的〉福岡JCメンバー一人ひとりが青年経済人として、リーダーシップを発揮できる人材になる機会を提供すること。

〈方法〉リーダーシップ論に関する講師をお呼びし、リーダーシップもついで研修を実施します。

◇理事・役員セミナーの設営・運営

〈目的〉リーダーシップや組織論について学び、理事・役員の在り方について改めて考え組織の活性化を図ること。

〈方法〉目的達成するに際して相応しい講師をお招きし、リーダーシップ論について講演していただきます。

◇会員規約・定款などに関する事項

〈目的〉現在の組織の問題点を把握し、時代に合った組織運営を図ること。

〈方法〉会員規約・定款について見直し、組織変革に関する調査研究・報告を実施します。

◇会員情報の更新・管理に関する事項

〈目的〉時代に応じて無駄な資源を省き、会員情報の更新・管理を容易にすることで利便性の向上を図ること。

〈方法〉IC手帳をなくし、全て電子化します。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉LOMの成長とまちへの貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また、委員長のリーダーシップのもと、総括幹事が推進役を担う。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生したときに、機動的に災害支援を行い、被災地や被災された市民に貢献すること。

〈方法〉LOM内で策定された行動計画・行動マニュアルを理解し、日常的に防災意識を持つことで、非常時に機動的にかつ組織的に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2024年 11月	□討議□協議(新春例会事業計画) □討議(理事・役員セミナー)		6月	□討議□協議(8月度通常例会事業計画)	ASPAC(ウランバトル) オールメンバーの集い
12月	□討議□審議(新春例会事業計画)	理事・役員セミナー	7月	□討議□審議(8月度通常例会事業計画)	サマーコンファレンス(横浜) 国際アカデミー
2025年 1月		新春例会 京都会議	8月		九州地区大会(延岡) 8月度通常例会
2月	□討議□審議(新春例会事業報告)	第3エリア合同例会	9月	□討議□審議(8月度通常例会事業報告)	
3月			10月		全国大会(佐賀)
4月			11月		世界会議(チェニス)
5月		福岡ブロック大会(山門) 広島定期交歓会	12月		送る夕べ 総会

# 総務財政規則委員会

## 委員会スローガン【BuildingTrust】



委員長 近藤 圭  
副委員長 瀬尾 昂平  
総括幹事 菅原 是道  
運営幹事 廣田 匡則  
会計幹事 大前 恒明  
広報幹事 梶田 真仁  
亀井 亮太  
柴田 貢太  
那須 亮太  
野元 優  
峰崎 悠  
宮内 貴仁  
安良岡 成晃  
横田 銀次

### ●基本方針

本年度の福岡JCは5月での事業実施が予定されており、早い段階での事業構築が求められていきます。限られた時間の中でひとつひとつの事業の精度を高めていくためには、総務財政規則委員会による総務面・財政規則面における、迅速かつ正確な運営が必要とされます。それらの迅速性・正確性を担保するためにも、委員会内外における密なコミュニケーションによる信頼関係の構築が必要不可欠です。

当委員会では、各種セミナーの実施や議案のチェックを通じて、各委員会が円滑に事業構築を行い、コンプライアンスに適合した事業を実施できるよう、各委員会の意見を聴きながら共に事業を構築していきます。

本年度福岡JCの全事業で行われる活動が、運動へと展開できるように、議案の内容を審査していきます。

そのためにも、各議案を読み込み、理解し、時に寄り添い、時に厳しい指摘もすることで議案の精度をあげていくことが重要です。

また、総務面においては、各会議体の設営・運営をスムーズに行うことは当然のこと、活発な意見交換が行われる会議が実施できるよう、スケジュール管理も含め、万端の事前準備を行っていきます。

福岡JCのすべての事業に携わる我々だからこそ、福岡JCの本年度の動きを知ることが出来ます。そこから見える視点は、福岡JCのもつ課題や可能性を見出すことができます。

委員会メンバーには、福岡JCの総務の運営・財政規則の精査を通じて、JCのルールだけでなく当事者意識をもって行動することの大切さを学んでもらいます。他の委員会が作っている議案であるという意識ではなく、自らが所属する福岡JCで実施される議案の構築に携わっていることを自覚する事で、福岡JCを根幹から支え、能動的に動くことができます。

そうした意識で所務に取り組むことでJCの魅力を深く理解し、与えられる機会をつかみ、自身や周囲の成長に変えていくことが出来るメンバーを輩出していきます。

委員会メンバー全員で、所務に全力で取り組むことで、福岡JCの今を支え未来へとつなげていきましょう。

### ●事業計画

#### ◇総会、理事会、常任理事会の設営・運営

〈目的〉各会議体の効率化を求め、より有益性の高い会議を運営し、福岡JCとしての意思を明確にすること。

〈方法〉各会議体において役割分担を明確化、出欠確認の徹底、時間厳守を行う。また、正確な議事録を作成し、決定した意思とそのプロセスを明確化する。

#### ◇各委員会の議案上程スケジュール管理

〈目的〉各議案が適正に協議・審議されるように、各委員会に周知徹底すること。

〈方法〉上程スケジュールの締切りを徹底するため、クラウドシステムを利用し各議案状況を把握し、アナウンスを行う。

#### ◇各委員会の事業に関する議案審査

〈目的〉JCのルールに則った議案となるように整えること。

〈方法〉各議案に対し、統一語句、誤字脱字のチェックを行う。

#### ◇各委員会議事録、事業報告書の管理・維持

〈目的〉各委員会の活動内容を把握できるようにするため、各委員会の議事録を管理すること。また、今後の事業構築に資するため、事業報告書を管理すること。

〈方法〉各委員会への議事録・事業報告書の期限内提出のアナウンスを行う。また、広報渉外委員会と連携し、福岡JCホームページの会員ページで閲覧できるようにする。

#### ◇会員規律、入会に関する事項

〈目的〉会員規律の意義を周知徹底し、組織が永続的に続くように努めること。

〈方法〉正会員に会員規律の徹底を促し、新入会員には入会審査時に説明を行う。

#### ◇副、幹事セミナーの設営・運営

〈目的〉各会の運営方法、スタッフの各役割を明確にし、セミナーを通じて全メンバーに周知し、委員会活動の円滑化を図ること。

〈方法〉正会員に会員規律の徹底を促し、新入会員には入会審査時に説明を行う。

#### ◇会員褒賞の企画・実施

〈目的〉会員のモチベーションが高くなるように、各種褒賞を設定すること。

〈方法〉褒賞内容は分かりやすく、かつ、取り組みやすいものとし、推薦方法及び選考基準に不明瞭な部分がないように褒賞内容を企画する。

#### ◇褒賞申請の作成(日本・地区・ブロック)

〈目的〉当該年度の事業について、褒賞申請を行うことで、福岡JCの魅力を全国に発信すること。

〈方法〉褒賞内容の確認をし、申請の段取りを把握したうえで、申請を行う。

# 総務財政規則委員会

- ◇委員会事業に関する予算、決算の事前審査
  - 〈目的〉メンバーからの会費を有効的に、また効果を最大化できるように事業予算が適正に計画され、実行されているかを厳正に審査すること。
  - 〈方法〉各事業において、背景・目的・手法を確認し、予算が適正に使用・処理されているかを精査する。
- ◇委員会事業に関するコンプライアンス審査
  - 〈目的〉各事業がコンプライアンス上適正なものであるかを審査し、JCとしてのルール、社会一般のルールを順守していくこと。
  - 〈方法〉事業内容がコンプライアンスに則っているか、JCとしてのルールと社会通念上の規範を逸脱していないかを審査する。
- ◇対外広報に関するコンプライアンス審査
  - 〈目的〉対外へと広報するコンテンツがコンプライアンス上適正なものであるかを審査し、JCとしてのルール、社会一般のルールを順守していくこと。
  - 〈方法〉対外広報する内容がコンプライアンスに則っているか、JCとしてのルールと社会通念上の規範を逸脱していないかを審査する。
- ◇財政規則審査のセミナーの設営・運営
  - 〈目的〉財政面、規則面に関する知識や見識を深めていただき、より精度の高い議案や収支計画の実現をめざすこと。
  - 〈方法〉セミナー資料を再構築し、修正指摘が多い箇所を中心に分かりやすい説明をし、議案の精度を高めていただく。
- ◇広島定期交歓会の設営・運営
  - 〈目的〉広島で実施される広島定期交歓会において、友好JCである広島JCとの交流を図ること。
  - 〈方法〉懇親会等を通じて、互いの親睦を深め、今後のJC活動に活かせる情報を共有できる場を設営する。
- ◇会員拡大・研修に関する事項
  - 〈目的〉LOMの成長とまちへの貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。
  - 〈方法〉メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また、委員長のリーダーシップのもと、総括幹事が推進役を担う。
- ◇非常災害時における支援に関する事項
  - 〈目的〉非常災害が発生したときに、機動的に災害支援を行い、被災地や被災された市民に貢献すること。
  - 〈方法〉LOM内で策定された行動計画・行動マニュアルを理解し、日常的に防災意識を持つことで、非常時に機動的にかつ組織的に行動できるように努める。

## 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2024年 11月	□討議□協議□協議□協議(褒賞議案計画)		6月		ASPAC(ウランバートル) オールメンバーの集い
12月	□討議□審議□協議□審議(褒賞議案計画)	副幹セミナー	7月		サマーコンファレンス(横浜) 国際アカデミー
2025年 1月		京都会議	8月		入会審査(後期) 九州地区大会(延岡)
2月		第3エリア合同例会	9月		
3月			10月		全国大会(佐賀)
4月		入会審査(中期)	11月		世界会議(チュニス)
5月		福岡ブロック大会(山門) 広島定期交歓会	12月		入会審査(前期) 送る夕べ 総会

一般社団法人 福岡青年会議所  
2025年度 室・委員会 所務分掌規程

<p><b>■JCブランディング特別委員会</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> LOMの運動、活動が多くの人目に触れるような情報発信の仕組みづくり</li> <li><input type="checkbox"/> LOM運動の広報手法を調査・研究し、効果的な情報発信の実施             <ul style="list-style-type: none"> <li>◇LOMホームページの管理・運営</li> <li>◇LOM紹介映像の制作</li> <li>◇各種行事・事業の対外・対内への事前・事後情報発信</li> <li>◇SNSなどを利用した情報発信の企画・管理・運営</li> <li>◇プレスリリースに関する事項                 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇持続可能な組織づくりのための継続的なファンづくり</li> </ul> </li> </ul> </li> <li><input type="checkbox"/> LOM活動の効果的な対外情報発信に関する企画・管理・運営             <ul style="list-style-type: none"> <li>◇外部団体からの取材などに関する対応</li> <li>◇LOM活動における写真・動画などの記録・管理</li> </ul> </li> <li><input type="checkbox"/> 新たなビジネスをデザインするための公開例会の情報発信 (3月)</li> <li><input type="checkbox"/> 有事に対する備えに関する公開例会の情報発信 (4月)</li> <li><input type="checkbox"/> 対外アンケートに関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 非会員の個人情報の管理に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</li> </ul>
<p><b>■JCネットワーク推進室</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 九州地区大会 (延岡) への参加促進</li> <li><input type="checkbox"/> 福岡ブロック大会 (山門) への参加促進</li> </ul>	<p><b>■JCネットワーク活性化委員会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 姉妹JCや友好JCなどブロックや他LOMと共同で行う事業の実施</li> <li><input type="checkbox"/> 福岡ブロック第3エリア合同例会の実施 (2月)</li> <li><input type="checkbox"/> 他LOMの参考になる取り組みをLOM内に発信に関する通常例会の実施 (11月)</li> <li><input type="checkbox"/> 出向者の支援、ならびに対内への情報発信に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 出向促進セミナーの実施</li> <li><input type="checkbox"/> ASPAC (ウランバトル) への参加促進</li> <li><input type="checkbox"/> 世界会議 (チュニス) への参加促進</li> <li><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</li> </ul> <p><b>■コミュニケーション推進委員会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> ファミリーレクリエーション例会の実施 (7月)</li> <li><input type="checkbox"/> 会員間のビジネスにおけるスキル・情報共有の機会を創出する例会の実施 (5月)</li> <li><input type="checkbox"/> 趣味の会に関する事項             <ul style="list-style-type: none"> <li>◇じゃがいもクラブの設営・運営</li> <li>◇ぼうふら会の設営・運営</li> <li>◇迷球会・FJCPONZ・ノーサイドクラブ・茶道同好会の支援</li> </ul> </li> <li><input type="checkbox"/> 送る夕べの企画・実施</li> <li><input type="checkbox"/> 短縮例会の実施 (7月・9月・12月)</li> <li><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</li> </ul>
<p><b>■意識開発室</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> サマーコンファレンスへの参加促進、LOMナイトの企画・実施</li> <li><input type="checkbox"/> トリオJCに関する事項</li> </ul>	<p><b>■ビジネスデザイン委員会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 最先端のテックなどを活用した経済を豊かにする事業の実施</li> <li><input type="checkbox"/> 新たなビジネスをデザインするための公開例会の実施 (3月)</li> <li><input type="checkbox"/> 香港シティJCに関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</li> </ul> <p><b>■レジリエンス向上委員会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 市民の有事に対する備えへの意識を向上させる事業の実施</li> <li><input type="checkbox"/> 有事に対する備えに関する公開例会の実施 (4月)</li> <li><input type="checkbox"/> トリオ締結60周年に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 釜山JCに関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 非常災害時におけるLOM内の行動計画の策定・推進</li> <li><input type="checkbox"/> LOMの非常災害時の行動マニュアルの作成</li> <li><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</li> </ul>
<p><b>■子ども未来創造室</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 全国大会佐賀大会への参加促進、LOMナイトの企画・実施</li> </ul>	<p><b>■グローバルシティ創造委員会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> グローバルシティを推進していく事業の実施 (室同時開催事業)</li> <li><input type="checkbox"/> 2025年度全国大会 (佐賀) に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 全国大会佐賀大会に合わせた短縮例会 (10月)</li> <li><input type="checkbox"/> サウスサイゴンJCに関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</li> </ul> <p><b>■アートシティ創造委員会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> アートシティを推進していく事業の実施 (室同時開催事業)</li> <li><input type="checkbox"/> 2025年度全国大会 (佐賀) に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 全国大会佐賀大会に合わせた短縮例会 (10月)</li> <li><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</li> </ul> <p><b>■アクションスポーツシティ創造委員会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> アクションスポーツシティを推進していく事業の実施 (室同時開催事業)</li> <li><input type="checkbox"/> 全国大会佐賀大会に合わせた短縮例会 (10月)</li> <li><input type="checkbox"/> 2025年度全国大会 (佐賀) に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</li> </ul>

<p><b>■会員開発室</b></p>	<p><b>■会員拡大委員会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 会員拡大に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 72周年式典の企画・実施 (6月)</li> <li><input type="checkbox"/> 短縮例会の実施 (6月)</li> <li><input type="checkbox"/> シニア交流会の企画・実施</li> <li><input type="checkbox"/> シニアクラブに関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> シニア総会の開催 (2月)</li> <li><input type="checkbox"/> 会員研修に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</li> </ul>
<p><b>■総務室</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 広島定期交歓会の設営・運営</li> <li><input type="checkbox"/> 役員セミナーの設営・運営</li> </ul>	<p><b>■研修委員会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 仮入会者への指導・研修に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 新入会者同期会事業に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> やすらぎ荘を含む障がい児・者支援に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 会員拡大に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</li> </ul> <p><b>■組織マネジメント委員会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 未来を担う若い人材を育成することのできる施策の実行</li> <li><input type="checkbox"/> 新春例会の実施 (1月)</li> <li><input type="checkbox"/> 会員向けリーダーシップ研修を行う例会の実施 (8月)</li> <li><input type="checkbox"/> 役員セミナーの設営・運営</li> <li><input type="checkbox"/> 会員規約・定款などに関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 会員情報の更新・管理に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</li> </ul> <p><b>■総務財政規則委員会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 総会、理事会、常任理事会の設営・運営</li> <li><input type="checkbox"/> 各委員会の議案上程スケジュール管理</li> <li><input type="checkbox"/> 各委員会の事業に関する議案審査</li> <li><input type="checkbox"/> 会員褒章の企画・実施</li> <li><input type="checkbox"/> 各委員会議事録、事業報告書の管理・維持</li> <li><input type="checkbox"/> 会員規律、入会に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 副、幹事セミナーの設営・運営</li> <li><input type="checkbox"/> 褒章申請の作成 (日本・地区・ブロック)</li> <li><input type="checkbox"/> 委員会事業に関する予算、決算の事前審査</li> <li><input type="checkbox"/> 委員会事業に関するコンプライアンス審査</li> <li><input type="checkbox"/> 対外広報に関するコンプライアンス審査</li> <li><input type="checkbox"/> 対外アンケートに関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 財政規則審査のセミナーの設営・運営</li> <li><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</li> </ul>

事務局長・常務・セクレタリー 所務分掌

<p><b>事務局長</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 外部団体出向、後援依頼の調査、確認に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 会員名簿、名刺、ネームプレートの作成に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 事務局の運営</li> <li><input type="checkbox"/> 常務・セクレタリーの統括</li> <li><input type="checkbox"/> 各諸会議の監督</li> <li><input type="checkbox"/> 北九州JCとの交流に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 非常災害時における対応窓口</li> <li><input type="checkbox"/> 糟屋JCの支援に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> その他</li> </ul>
<p><b>常務</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 理事長の同行及び所務の補佐</li> <li><input type="checkbox"/> 専務理事、事務局長のサポート</li> <li><input type="checkbox"/> 理事長のスケジュール管理、調整に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> 京都会議への参加促進、LOMナイトの企画・実施</li> <li><input type="checkbox"/> その他</li> </ul>
<p><b>セクレタリー</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 理事長の同行及び所務の補佐</li> <li><input type="checkbox"/> 理事長のスケジュール管理、調整に関する事項</li> <li><input type="checkbox"/> その他</li> </ul>

一般社団法人 福岡青年会議所 2025年度委員会編成表

理事		事務局長		尾本 勝 征		田 維 嘉 真		専務理事 田 原 義 也		直前理事長 石 坂 泰 三			
副理事長		大 幡 則 文		甲 木 正 孝		会 員 開 発 室		総 務 室		監 事			
特別委員会		意識開発室		こども未来創造室		研 究 委 員 会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問			
委員長		レジュエンス 向上委員会		グロバールシティ 創造委員会		アワードシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		専 務	
副委員長		ビジネスマン 委員会		クローバルシティ 創造委員会		アワードシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問	
委員		コミュニティ 推進委員会		レジュエンス 向上委員会		グロバールシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問	
総務幹事		ICネットワーク 活性化委員会		ビジネスマン 委員会		クローバルシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問	
運営幹事		ICネットワーク 活性化委員会		ビジネスマン 委員会		クローバルシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問	
会計幹事		ICネットワーク 活性化委員会		ビジネスマン 委員会		クローバルシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問	
広報幹事		ICネットワーク 活性化委員会		ビジネスマン 委員会		クローバルシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問	
(出向理事)		ICネットワーク 活性化委員会		ビジネスマン 委員会		クローバルシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問	
委員 1.		ICネットワーク 活性化委員会		ビジネスマン 委員会		クローバルシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問	
2.		ICネットワーク 活性化委員会		ビジネスマン 委員会		クローバルシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問	
3.		ICネットワーク 活性化委員会		ビジネスマン 委員会		クローバルシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問	
4.		ICネットワーク 活性化委員会		ビジネスマン 委員会		クローバルシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問	
5.		ICネットワーク 活性化委員会		ビジネスマン 委員会		クローバルシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問	
6.		ICネットワーク 活性化委員会		ビジネスマン 委員会		クローバルシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問	
7.		ICネットワーク 活性化委員会		ビジネスマン 委員会		クローバルシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問	
8.		ICネットワーク 活性化委員会		ビジネスマン 委員会		クローバルシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問	
9.		ICネットワーク 活性化委員会		ビジネスマン 委員会		クローバルシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問	
10.		ICネットワーク 活性化委員会		ビジネスマン 委員会		クローバルシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問	
11.		ICネットワーク 活性化委員会		ビジネスマン 委員会		クローバルシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問	
12.		ICネットワーク 活性化委員会		ビジネスマン 委員会		クローバルシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問	
13.		ICネットワーク 活性化委員会		ビジネスマン 委員会		クローバルシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問	
14.		ICネットワーク 活性化委員会		ビジネスマン 委員会		クローバルシティ 創造委員会		アカウンタブル シティ創造委員会		組 織 委 員 会		法 制 顧 問	
専務理事	堀 祐 一 郎	伊 東 健 太 郎	大 幡 則 文	甲 木 正 孝	田 維 嘉 真	専務理事 田 原 義 也	直前理事長 石 坂 泰 三						
特別委員会	JCブランドイング特別委員会	JCネットワーク推進室	意識開発室	こども未来創造室	会員開発室	総務室							
委員長	後藤 雄 治	馬場 秀 一	寺田 光 児	小柳 佑 貴	鶴 和 晃	立 部 真 康							
副委員長	牛島 淳 嗣	岩切 拓 也	西方 亮 祐	小菅 良 助	國松 祥 治	近藤 圭							
総務幹事	入江 賢	羽川 礼 華	近藤 瑛 理	倉掛 裕 輔	高見 慎 也	瀬尾 昂 平							
運営幹事	氣賀澤 暢 真	吉山 慎 一	長島 義 弘	上野 誠 司	市丸 浩 太	菅原 豊 道							
会計幹事	山口 武 藏	清水 悠 輔	大和 尚 之	木園 和 大	松山 馨	廣田 匡 則							
広報幹事	長澤 一 輝	山田 依 未	米村 祐 太	高生 浩 世	林 伸 大 郎	大前 恒 明							
(出向理事)	徳田 成 泰	山下 卓 也	平川 靖 徳	樋口 春 菜	篠崎 絵 理	花田 真 仁							
委員 1.	秋吉 光 太郎	工藤 大 明	阿部 秀 樹	加地 英 紀	池田 英 樹	亀井 亮 太							
2.	小野瀬 泰 星	左近 春 香	池田 翔 一	合谷 賢 太	石川 卓 弥	柴田 真							
3.	坂田 裕 之	末永 純 也	尾花 一 樹	佐藤 大 輔	河野 秀 平	那須 亮 太							
4.	平井 裕 登	竹野 憲 介	川島 裕 司	高田 友 美 子	正岡 憲	野元 優							
5.	保利 一 晶	永松 賢 二	坂梨 高 介	平野 由 衣		峰崎 悠							
6.	三上 規 貴	間嶋 弘 幸	西原 宗 佑	三重野 翔 太		宮内 貴 仁							
7.	吉村 総	山下 正 太	松岡 大 輝	薬師 雅 美		安良岡 成 晃							
8.						横田 鏡 次							
9.													
10.													
11.													
12.													
13.													
14.													

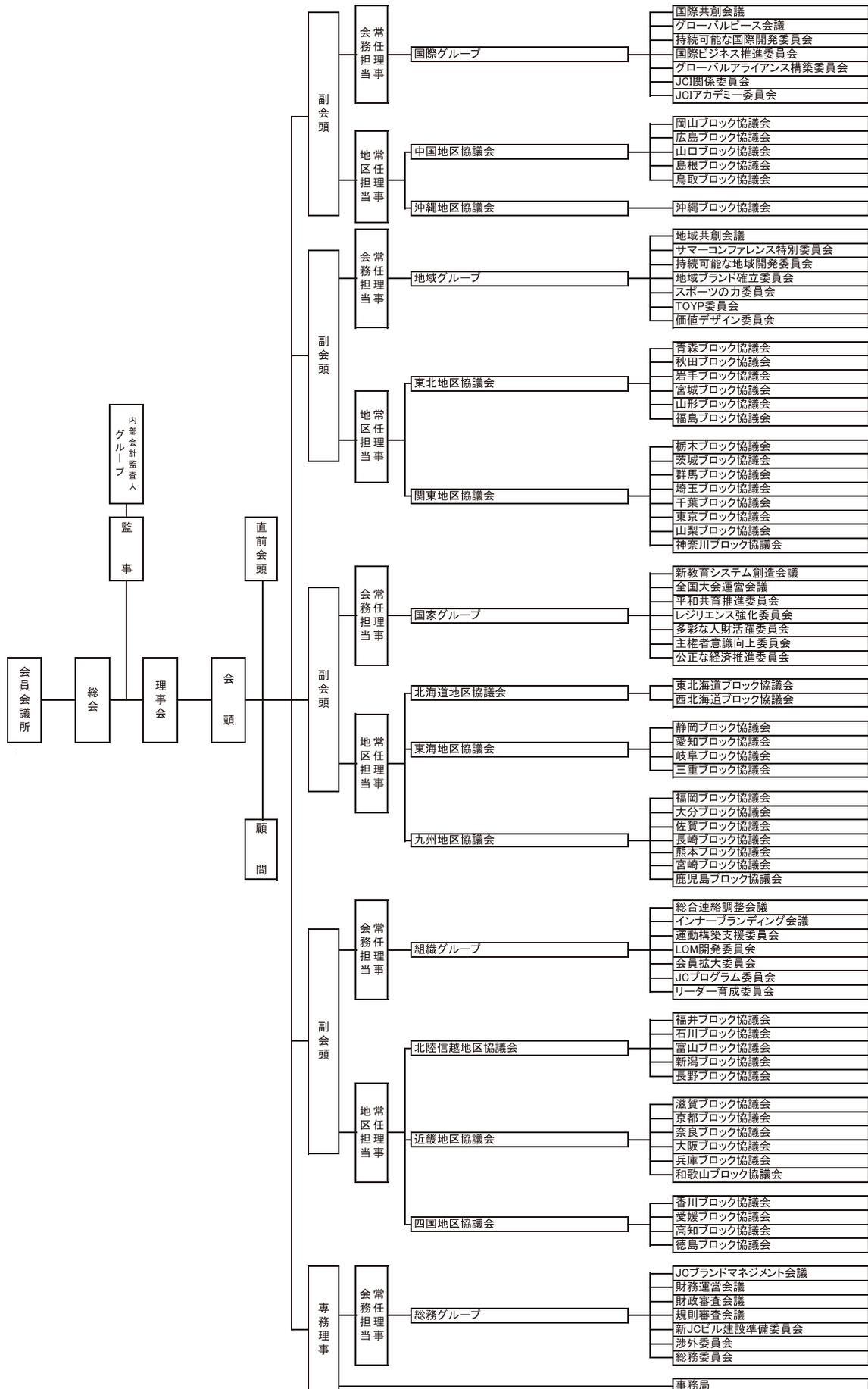
## 青年会議所の概況

- JCI 加盟国 109 NOMs
- JCI 加盟 JC 数 4,663 LOMs 会員数 147,663 名 < 2024年1月現在 >
- 日本 JC 加盟 JC 数 671 LOMs 会員数 26,906 名 < 2024年10月1日現在 >
- 福岡 JC 会員数 176 名 < 2025年1月1日推定 >
  
- 福岡 JC 創立関連
  - 《 創 立 年 月 日 》 1953 年 2 月 4 日 《 スポンサー JC 》 宮崎 JC
  - 《 法人許可年月日 》 1971 年 4 月 24 日
  - 《 一般社団法人  
移行年月日 》 2013 年 10 月 1 日
  
- スポンサー JC 飯塚 JC、久留米 JC、直方 JC、つくし JC、糸島 JC、糟屋 JC
  
- シスター JC 釜山 JC (韓国) 1965 年 4 月 20 日  
※下関 JC と共にトリオ JC として姉妹締結  
城市 JC (香港) 1984 年 11 月 4 日 姉妹締結  
サウスサイゴン JC (ベトナム)  
2016 年 11 月 1 日 姉妹締結
  
- 友好 LOM 北九州 JC 2001 年 11 月 21 日 友好 LOM 締結  
広島 JC 1986 年から毎年、交歓会を開催

# 公益社団法人 日本青年会議所

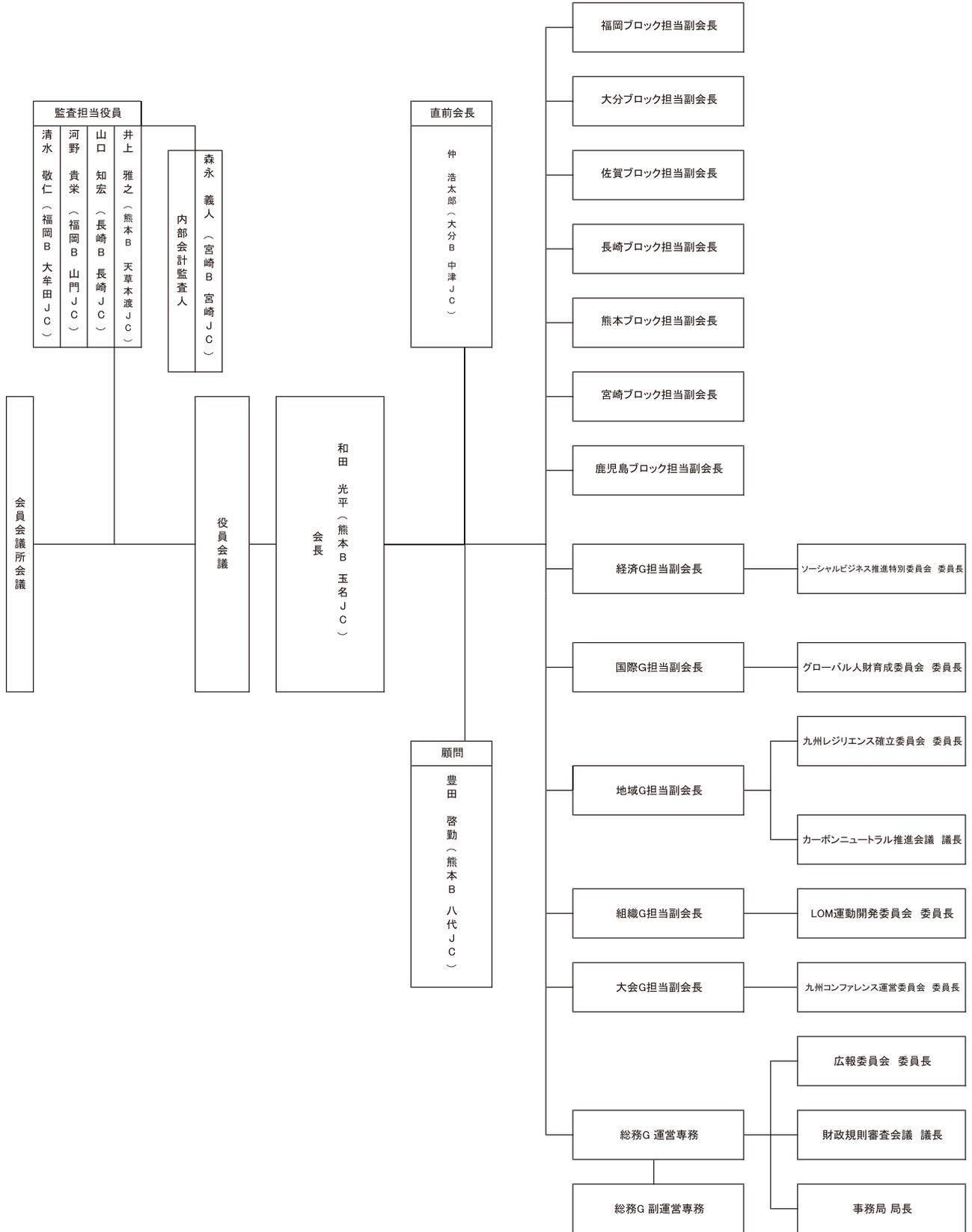
## 2025年度 基本資料

### 組織図

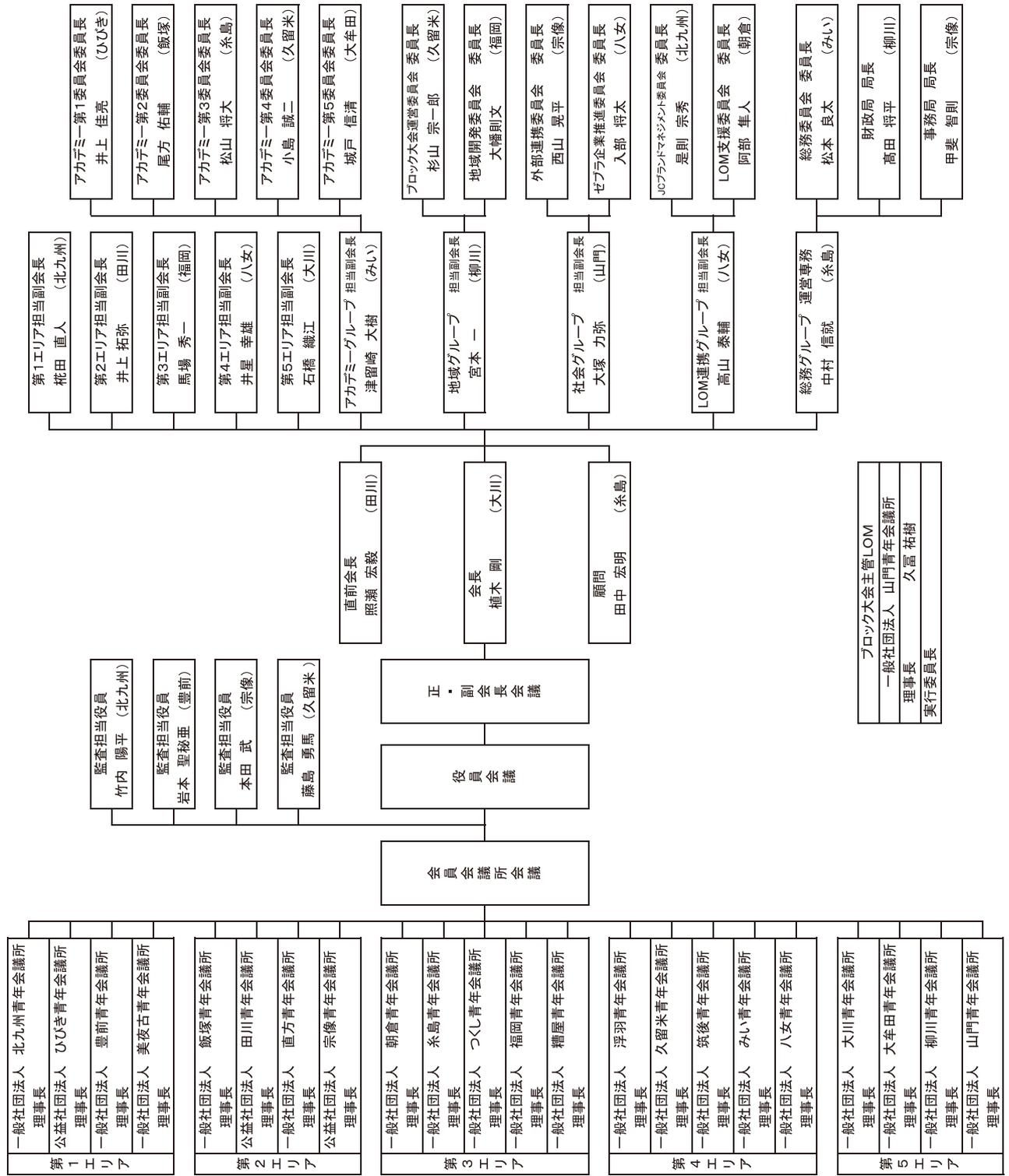


※記載のブロック協議会は、第177回総会にて上程される、公益社団法人日本青年会議所の定款変更を前提とした組織図となります。

公益社団法人日本青年会議所 九州地区協議会 2025年度 組織図



# 2025年度福岡ブロック協議会 組織図



## 福岡青年会議所 歴代理事長

第1期 ( 1953年 2月~6月 )	橋上 保久	第37期 (1989年)	石坂 博史
第2期 ( 1953年7月~ 1954年6月 )	橋上 保久	第38期 (1990年)	真鍋 博俊
第3期 ( 1954年7月~ 1955年6月 )	具島 正二	第39期 (1991年)	小林 専司
第4期 ( 1955年7月~ 1956年12月 )	具島 正二	第40期 (1992年)	樺島 逸兵
第5期 (1957年)	伊藤 剛平	第41期 (1993年)	菅原 正道
第6期 (1958年)	高松 光彦	第42期 (1994年)	河邊 哲司
第7期 (1959年)	武内 徳夫	第43期 (1995年)	安川 哲史
第8期 (1960年)	野上 恭敬	第44期 (1996年)	松山 政司
第9期 (1961年)	坂本 行雄	第45期 (1997年)	吉松 修
第10期 (1962年)	高松 邦彦	第46期 (1998年)	田中 彰洋
第11期 (1963年)	喜多村辰男	第47期 (1999年)	新町 敦志
第12期 (1964年)	四島 司	第48期 (2000年)	藤野 利浩
第13期 (1965年)	大賀禮太郎	第49期 (2001年)	井上 貴博
第14期 (1966年)	麻生 純三	第50期 (2002年)	岩本 仁
第15期 (1967年)	久野 桂一	第51期 (2003年)	廣田 稔
第16期 (1968年)	中島 邦補	第52期 (2004年)	井上 博行
第17期 (1969年)	栗栖健一郎	第53期 (2005年)	宮崎 鐘子
第18期 (1970年)	田中丸善司	第54期 (2006年)	小池 勝利
第19期 (1971年)	後藤 隆雄	第55期 (2007年)	富永 太郎
第20期 (1972年)	洞 尚	第56期 (2008年)	新開 裕司
第21期 (1973年)	江口昭八郎	第57期 (2009年)	大村 光
第22期 (1974年)	金子 宜嗣	第58期 (2010年)	大山 哲寿
第23期 (1975年)	近江 福雄	第59期 (2011年)	長沼 慶也
第24期 (1976年)	古賀 秀策	第60期 (2012年)	末松 大和
第25期 (1977年)	加地 良一	第61期 (2013年)	田川 幸平
第26期 (1978年)	富永 恒二	第62期 (2014年)	森山 新樹
第27期 (1979年)	榎本 一彦	第63期 (2015年)	中田 泰平
第28期 (1980年)	冬至 洋一	第64期 (2016年)	藤 真臣
第29期 (1981年)	新川 宏輔	第65期 (2017年)	鈴木 大輔
第30期 (1982年)	青柳 泰秀	第66期 (2018年)	田島 敬悟
第31期 (1983年)	熊谷 信治	第67期 (2019年)	岩木 勇人
第32期 (1984年)	福永 周兵	第68期 (2020年)	出田 正城
第33期 (1985年)	榎本 正弘	第69期 (2021年)	彌登 義明
第34期 (1986年)	中牟田健一	第70期 (2022年)	西嶋 聖
第35期 (1987年)	中村 量一	第71期 (2023年)	前川 裕貴
第36期 (1988年)	財津 重美	第72期 (2024年)	石坂 泰三

## 出向外部団体一覧

	団体名
1	NPO 法人 アジア太平洋子ども会議・イン福岡
2	アジア太平洋子ども会議・イン福岡支援の会
3	アジア太平洋子ども会議・イン福岡実行委員会
4	BCIO (Bridge Club International Organization)
5	福岡・US オークランド姉妹都市委員会
6	福岡・広州姉妹都市委員会
7	福岡・ボルドー姉妹都市委員会
8	福岡・NZ オークランド姉妹都市委員会
9	北方領土返還促進福岡県民協議会
10	福岡市ごみ減量・リサイクル推進会議
11	一般社団法人 九州市民大学
12	福岡市民の祭振興会
13	福岡市地球温暖化対策市民協議会
14	福岡フィルムコミッション
15	福岡市交通安全推進協議会
16	福岡市自動車交通公害防止計画推進協議委員会
17	犯罪のない安全で住みよいまちづくり推進本部
18	FUKUOKA みらいプロジェクト
19	那珂川水上交通活性化推進協議会
20	福岡城・鴻臚館の将来を市民と考える実行委員会
21	地域司法連絡協議会
22	FUKUOKA Christmas Market 実行委員会
23	福岡マラソン実行委員会
24	アビスパグローバルアソシエイツ (AGA)
25	一般社団法人 九州インターンシップ推進協議会
26	社会福祉法人 野の花学園
27	福岡トライアスロン組織委員会
28	グローバルコミュニティ FUKUOKA 推進プラットフォーム
29	福岡市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会
30	博多湾芸術花火開催委員会
31	福岡県スポーツ推進審議会 スポーツ未来像部会



## 一般社団法人 福岡青年会議所

〒812-0021

福岡市博多区築港本町 13-6 ベイサイドプレイス博多 C棟

TEL:092-263-6333 FAX:092-263-6334

13-6, Chikkouhonmachi, Hakataku,

Fukuoka-shi, Fukuoka, 812-0021, JAPAN

PHONE +81-92-263-6333 FAX +81-92-263-6334

<https://www.fukuoka-jc.or.jp/>

E-mail [jci-fukuoka@dream.jp](mailto:jci-fukuoka@dream.jp)